取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PIXIS VAN

TOYOTA

このたびは、トヨタ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、ピクシス バンの正しい取り扱いかたや、手入れの方法などについて説明しているほか、お車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、お車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は次の通りです。

⚠ 警告	**お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。**
⚠ 注意	**お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。**
知識	**機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。**
オプション / グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。 車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のトヨタ販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	・マニュアルトランスミッション ・オートマチックトランスミッション

ネームプレートは助手席ドアを開けたところに貼り付けしてあります。

MEMO

目次

絵目次 …… 2
こんなときは …… 12

必読！ ドライバーのみなさまへ

走行する前に …… 16
エンジンをかけるときは …… 20
走行しているときは …… 21
駐停車するときは …… 24
お子さまを乗せるときは …… 26
こんなときは …… 29
お車を長持ちさせるには …… 32
知っておいていただきたいこと …… 34

安全なドライブのために

正しい運転姿勢 …… 38
正しい運転姿勢 …… 38
シートベルト …… 39
正しいシートベルトの着用 …… 39
シートベルトの使いかた …… 40
お子さま専用シート …… 44
チャイルドシート …… 44
チャイルドシートの選びかた …… 46
チャイルドシートの固定のしかた …… 49
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグコンピューター …… 59

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉 …… 62
キー …… 62
キーレスエントリー …… 64
ドア …… 65
スライドドア …… 69
バックドア …… 72
パワーウインド …… 76
手動式ウインド …… 78
給油のしかた …… 79
車体各部の調整 …… 82
フロントシート …… 82
リヤシート …… 85
ヘッドレスト …… 91
シートアレンジ …… 93
ルームミラー …… 94
ドアミラー …… 94

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯 …… 98
警告灯 …… 99
表示灯 …… 107
メーターのはたらき …… 111
メーター …… 111
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 113
スイッチの使いかた …… 119
ランプスイッチ …… 119
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 125
フォグランプスイッチ …… 126
ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 127
ホーンスイッチ …… 129
方向指示スイッチ …… 129
非常点滅灯スイッチ …… 130

お車を運転するにあたって

運転するときは …… 132
運転をする前に …… 132
運転のしかた …… 134
運転するときの注意事項 …… 138
運転装置の使いかた …… 142
エンジンスイッチ …… 142
駐車ブレーキ …… 144
シフトレバー
（オートマチック車）…… 145
シフトレバー
（マニュアル車）…… 149
パートタイム4WD …… 150
ABS …… 152
ABS （EBD 機能付） …… 152
VSC & TRC …… 154
VSC …… 154
TRC …… 155
メーター表示 …… 157
VSC & TRC OFF
スイッチ …… 158
ヒルホールドシステム …… 160
ヒルホールドシステム …… 160
スマートアシストⅢ …… 161
スマートアシストⅢ …… 161
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者）…… 167
誤発進抑制制御機能
（前方・後方）…… 176
車線逸脱警報機能 …… 183
先行車発進お知らせ機能 …… 186
メーター表示 …… 188
スマートアシスト OFF
スイッチ …… 193
コーナーセンサー …… 195
コーナーセンサー（リヤ） …… 195
ブザー …… 198
**エマージェンシー
ストップシグナル …… 199**
エマージェンシー
ストップシグナル …… 199

アイドリング ストップシステム …… **200**
eco IDLE（エコアイドル）…… 200
エコ発電制御 …… **212**
エコ発電制御 …… 212

装備品の使いかた

空調 …… **214**
マニュアルエアコン …… 214
リヤウインド デフォッガースイッチ …… 220
リヤヒーター …… 221
オーディオ …… **222**
アンテナ …… 222
オーディオの取り扱い …… 222
AM/FM ラジオ …… 224
室内装備品 …… **230**
室内照明 …… 230
アクセサリーソケット …… 232
100V 電源 …… 233
サンバイザー …… 234
アシストグリップ／乗降グリップ …… 235
収納装備 …… 236
ドリンクホルダー …… 239
マルチユーティリティフック … 239

お車の手入れ

日常の手入れ …… **242**
ボデー、塗装面の手入れ …… 242
室内の手入れ …… 244
簡単な点検・部品の交換 …… **246**
各部の点検 …… 246
消耗品の補給、交換 …… 252
タイヤの点検 …… 256
ワイパーの交換 …… 258
エアコンガス、フィルターの交換 …… 262
ヒューズの交換 …… 263
電球（バルブ）交換 …… 266
キーの電池交換 …… 278

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い …… **282**
冬に向かっての手入れ …… 282
走行前点検と準備 …… 283
積雪、寒冷時の走行 …… 284
走行中の点検と注意 …… 285
走行後の取り扱い …… 286

いざというときに

工具類 …… **290**
格納場所 …… 290
ジャッキの使いかた …… 292
いざというときの処置 …… **296**
エンジンがかからないとき …… 296
スタック（立ち往生）したとき …… 296
故障したとき …… 297
けん引されるとき …… 298
パンクしたとき …… 300
スペアタイヤ …… 301
タイヤの交換 …… 303
バッテリーあがりの処置 …… 307
オーバーヒートの処置 …… 310
キーを閉じ込めたとき …… 311
車両を緊急停止するには …… 312
事故が起きたとき …… 313

サービスデータ

サービスデータ …… **316**

さくいん

さくいん …… 322

絵目次

外観

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

❶ リヤワイパー …… 128
❷ リヤウインドデフォッガー …… 220
❸ アンテナ …… 222
❹ バックドア …… 72
❺ ソナー …… 166
❻ コーナーセンサー（リヤ） …… 195
❼ フューエルリッド …… 81
❽ ステレオカメラ …… 164
❾ フロントワイパー …… 127
❿ ドアミラー …… 94
⓫ スライドドア …… 69
⓬ けん引フック …… 300
⓭ ボンネット …… 250
⓮ ドアの開閉 …… 65
⓯ タイヤの交換 …… 303
⓰ タイヤローテーション …… 257

内装（1）

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
衝突時などに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

（チャイルドシートの固定のしかた→ 49 ページ）

❶ ルームミラー…… 94
❷ ルームランプ（フロント）…… 230
❸ サンバイザー…… 234
❹ オーバーヘッドシェルフ …… 237
❺ 車内からの施錠・解錠 …… 67
❻ パワードアロック …… 68
❼ シートベルト …… 39
❽ パワーウインドスイッチ …… 77
❾ ルームランプ（センター） …… 230
荷室 LED ランプ …… 230
❿ 駐車ブレーキ…… 144
⓫ フロントシート …… 82
⓬ フューエルリッドオープナーレバー…… 81
⓭ リヤシート …… 85

内装（2）

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

❶ ドリンクホルダー …… 239
❷ 助手席 SRS エアバッグ …… 53
❸ オーディオ …… 224
❹ メーター …… 111
❺ 運転席 SRS エアバッグ …… 53
❻ グローブボックス …… 238
❼ 発炎筒 …… 297
❽ 助手席トレイ／センタートレイ …… 237
❾ マルチユーティリティフック …… 239
❿ アクセサリーソケット …… 232
⓫ 100V 電源 …… 233
⓬ ボンネットオープナー …… 251

運転席まわり

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

❶ エアコン…… 214
❷ シフトレバー
オートマチック車 …… 145
マニュアル車…… 149
❸ 非常点滅灯スイッチ …… 130
❹ フロントワイパー・ウォッシャースイッチ …… 127
❺ リヤワイパー・ウォッシャースイッチ …… 128
❻ ホーンスイッチ …… 129
❼ エンジンスイッチ …… 142
❽ フォグランプスイッチ …… 126
❾ ランプスイッチ …… 119
❿ 方向指示スイッチ …… 129
⓫ パワーウインドスイッチ …… 77
⓬ リヤウインドデフォッガースイッチ …… 220
⓭ 4WD スイッチ …… 150
⓮ スマートアシスト OFF スイッチ …… 193
⓯ VSC & TRC OFF スイッチ …… 158
⓰ ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ …… 125
⓱ eco IDLE OFF スイッチ …… 208
⓲ オートハイビームスイッチ …… 121
⓳ ドアミラースイッチ …… 95
⓴ リヤヒーターファンスイッチ …… 221

警告灯一覧

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

エンジン警告灯 ……99

油圧警告灯……99

充電警告灯…… 100

駐車ブレーキ未解除警告灯 …… 100

ブレーキ警告灯 …… 100

水温警告灯（赤色）…… 101

O/D OFF オートマチックトランスミッション警告灯（点滅）…… 102

シートベルト締め忘れ警告灯（点滅）…… 102

半ドア警告灯 …… 103

燃料残量警告灯…… 103

ABS 警告灯 …… 104

SRS エアバッグ警告灯…… 104

オートハイビーム警告灯（黄色）…… 124

スマアシ故障 スマートアシスト故障警告灯 …… 190

スマアシ停止 スマートアシスト停止警告灯 …… 190

電動パワーステアリング警告灯 …… 105

VSC & TRC 警告灯 … 157

マスターウォーニング …… 106

eco IDLE 表示灯（高速点滅）…… 207

OFF eco IDLE OFF 表示灯（点滅）…… 207

OFF スマートアシスト OFF 表示灯 …… 189

OFF 車線逸脱警報 OFF 表示灯 …… 189

表示灯一覧

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯…… 107

ヘッドランプ上向き表示灯…… 107

フォグランプ表示灯 …… 108

テールインジケーター … 108

水温表示灯（青色）…… 108

O/D OFF 表示灯 …… 108

eco IDLE 表示灯 …… 207

eco IDLE OFF 表示灯…… 207

スリップインジケーター（点滅）…… 157

VSC OFF 表示灯…… 158

TRC OFF 表示灯 …… 158

4WD 表示灯 …… 109

ブレーキオーバーライドシステム表示灯 …… 109

スマートアシスト作動灯（点滅）…… 188

車線逸脱警報作動灯（点滅）…… 188

スマートアシスト OFF 表示灯…… 189

車線逸脱警報 OFF 表示灯…… 189

オートハイビーム作動灯（緑色）…… 124

お困りの際は、次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーレスエントリー装着車

● メインキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？

症状を確認して、該当すれば電池を交換してください。

→ 278 ページ（キーの電池交換）

● 電波状況により、機能が正常にはたらいていない可能性があります。

→ 64 ページ（作動範囲）

エンジンがかからない

● オートマチック車 ブレーキペダルをしっかり踏めていますか？

● オートマチック車 シフトレバーは“P”レンジになっていますか？

● マニュアル車 クラッチペダルをいっぱいまで踏み込めていますか？

「エンジンのかけかた」を参照して、もう一度操作してください。

→ 142 ページ（エンジンのかけ方）

● ハンドルがロックされていませんか？

ハンドルを軽く左右に回しながら、キーを回してください。

2WD⇄4WD に切り替わらない

パートタイム 4WD 車

● エンジンが停止していませんか？

eco IDLE によるアイドリングストップ中は、4WD に切り替わりません。

→ 150 ページ（4WD スイッチ）

● エンジンは暖まっていますか？

暖機不足の状態では、4WD に切り替わらないことがあります。

→ 150 ページ（パートタイム 4WD）

eco IDLE によるアイドリングストップをしない
eco IDLE によるアイドリングストップ中にエンジンが再始動した

● eco IDLE には作動する条件、また再始動する条件があります。

次を参照してください。

→ 203 ページ（システムの作動条件について）

警告灯が表示された

● 次を参照してください。

→ 99 ページ（警告灯）

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう

必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

警告に値する項目です

注意に値する項目です

走行する前に …… 16
エンジンをかけるときは …… 20
走行しているときは …… 21
駐停車するときは …… 24
お子さまを乗せるときは …… 26
こんなときは …… 29
お車を長持ちさせるには …… 32
知っておいていただきたいこと …… 34

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンスノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（車体各部の調整→ 82 ページ）

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「正しいシートベルトの着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

（正しいシートベルトの着用→ 39 ページ）

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤシートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体に当たるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷物の積みかたに注意してください

- 重い荷物はかたよりのないように均等に積んでください。荷物のかたよりがあるとカーブなどで横転するおそれがあり危険です。
- 荷物の荷くずれや落下のないように、ロープなどでしっかり固定してください。

運転席足元を定期的に清掃してください

フロアマットや床面を定期的に清掃し、小石やゴミなどがたまらないようにしてください。また、乗車前に靴底に付いた小石などをよく落とし、なるべく車内に持ち込まないようにしてください。
足元にたまった小石やゴミなどがペダル操作のさまたげになったり、そのまま使用し続けると摩擦でフロアマットに穴が開き、ペダルが引っかかって思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットはこの車（年式）専用のトヨタ純正品を使用してください

● 運転席にフロアマットを使用するときは、次の項目を必ず守って正しく装着してください。これらを守らないと、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- この車（年式）専用のトヨタ純正品を使用してください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属の取付要領書にしたがって正しく装着してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ずれないようにフロアマット付属の専用クリップで必ず固定してください。固定フックの形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返したりして使用しないでください。

● クリップの破損などにより、フロアマットが固定できなくなったときは、すみやかにフロアマットの使用を中止してください。

● 運転する前に、次のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定クリップで正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジンを停止状態にして、シフトレバーがマニュアル車はニュートラル、オートマチック車は“P”レンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

タイヤ空気圧の点検をしてください

「タイヤ空気圧の点検」をお読みいただき、定期的に点検を実施して指定空気圧に調整してください。

（タイヤ空気圧の点検→ 256 ページ）

安全な燃料給油のために

燃料給油する場合に知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、特にセルフガソリンスタンドなどでお客様自身で燃料給油する場合に注意していただきたいことがあります。
「給油のしかた」をよくお読みいただき、安全に給油を行ってください。

（給油のしかた→ 79 ページ）

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグについて知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、ご注意いただきたいことがあります。
「SRS エアバッグ」をよくお読みください。

（SRS エアバッグ→ 53 ページ）

オートマチック車について

オートマチック車の特性や操作上で注意していただきたいことがあります。
「運転するときは」をよくお読みください。

（運転するときは→ 132 ページ）

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災につながるおそれがあり危険です。

排気ガスにご注意ください

- 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、次のことをお守りください。お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。
  - 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。
  - 換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。
  - 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に停車し、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
  - 排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
  - 走行中はバックドアを閉じてください。バックドアを閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
  - 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

マニュアル車、オートマチック車で注意していただきたいこと

マニュアル車

マニュアル車には、エンジン始動時の誤作動を防ぐためクラッチスタートシステムが装備されています。クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。
駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをニュートラルにし、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでからエンジンを始動してください。

オートマチック車

駐車ブレーキをかけた状態でシフトレバーを必ず“P”レンジにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、次のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作動しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- エンジンスイッチが“LOCK”のときはキーが抜けるおそれがあります。万一キーが抜けるとハンドルがロックし、ハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、お車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 312 ページ）

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

マニュアル車

- 1 速ずつ落とす

オートマチック車

- シフトレバーを“2”レンジに入れる
  また、より強いエンジンブレーキが必要な場合は“L”レンジに入れる

その際には、急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）をさけてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
また、ぬれた路面や積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

- ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき→ 296 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジンオイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。
また、リヤシートの背もたれを前倒しした状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（正しい運転姿勢→ 38 ページ）

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください

マニュアル車

クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルームミラーやドアミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをマニュアル車は 1 速（上り坂）または後退（下り坂）、オートマチック車は“P”レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばにお車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災につながるおそれがあり危険です。お車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、お車を止めたりしないでください。

お車から離れるときに注意していただきたいこと

お車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。お車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、お子さまのみを車内に残してお車から離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、お車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、風通しの良くない所や風向きによっては排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。
万一のために停止表示板（停止表示灯）はお車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。

ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。（ただし、eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足が排気管に触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後の排気管は高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

お車が雪で覆われたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態でお車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

お車から離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによるお車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒にお車から離れてください。

ドアやウインドなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやウインドの開閉、シートの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやウインドの開閉、シートの調整などは大人が操作してください。
- パワーウインドは、お子さまが自分で操作できないようにパワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

（パワーウインド OFF スイッチ→78 ページ）

お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、万一のとき、お子さまがインストルメントパネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。

お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。
  通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
  また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
- ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルドシート→ 44 ページ）

チャイルドシートは正しく取り付けてください

助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
SRS エアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。

お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。
絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害を受けるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 99 ページ）

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときエンジンルームまたはボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にエンジンルームまたはボンネットを開けないでください。
また、あわててラジエーターキャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバーヒートの処置→ 310 ページ）

エンストしたとき

落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤの交換→ 303 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所にお車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、お車に異常のおそれがあります。このようなときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、次の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
  また、走行中にエンジンルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  また、SRS エアバッグコンピューターの周囲に水がかかると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。
  スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 運転者はハンズフリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。電話をかけるときや電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

次のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車、路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、トヨタが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

お車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、このお車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機やトヨタ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にトヨタ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「トヨタ純正部品」のご使用をおすすめします。
詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

知っておいていただきたいこと

RF 送信機の取り付けについて

RF 送信機は、次のような電子システムに影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

- 燃料噴射システム
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグシステム
- プリテンショナー付シートベルト

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

データの取り扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうトヨタは、トヨタ自動車株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。
EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合せて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。
トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうトヨタは、トヨタ自動車株式会社を意味しています。】

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーなど）に取り付けることはできません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

安全なドライブのために

正しい運転姿勢
正しい運転姿勢 …… 38
シートベルト
正しいシートベルトの着用 … 39
シートベルトの使いかた …… 40
お子さま専用シート
チャイルドシート …… 44
チャイルドシートの
選びかた …… 46
チャイルドシートの
固定のしかた …… 49
SRS エアバッグ
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ
コンピューター …… 59

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、次のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること

（フロントシート→ 82 ページ）

- シートベルトが正しく着用できること

（シートベルト→ 39 ページ）

- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること

（ヘッドレスト→ 91 ページ）

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 39 ページ）

シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者はお車を運転する前に、次のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた

- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠ 警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

シートベルトの使いかた

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき

1 プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む

2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる

⚠ 注意

プレートを差し込むときは

● プレートでバックルを無理にこじらないでください。

▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻します。

📖 知識

ベルトがロックし引き出せないときは

● ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルトブザーについて

● 運転席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h 以上で走行すると、ブザーが約2 分間鳴ります。

（シートベルト締め忘れ警告灯（運転席）→ 102 ページ）

プリテンショナー & フォースリミッター機構

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けると、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

フォースリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

⚠ 警告

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 次のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 廃車にするとき
- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのトヨタ販売店で交換してください。

知識

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

シートベルトの取扱いと手入れ

⚠ 警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
  ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 1 人で座ることのできない乳幼児の場合はベビーシート（別売）を使用してください。
- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルドシートやジュニアシート（別売）を使用してください。

（チャイルドシート→ 44 ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた
→ 49 ページ）

- シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
  - 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。

⚠ 警告

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。

- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、トヨタ販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、トヨタ販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。
  衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

お子さま専用シート

チャイルドシート

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをご使用ください。

- お子さまの安全のため、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 車両に固定するチャイルドシートには、シートベルトで固定するタイプとISO*1 FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーで固定するタイプがあります。

（チャイルドシートの固定のしかた → 49 ページ）

チャイルドシートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルドシートが不必要なお子さまは、シートベルトを着用させてください。

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

（チャイルドシートの種類→ 45 ページ）

*1 International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

チャイルドシートの質量グループについて

UN（ECE）R44*[1] の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

チャイルドシートの種類

ベビーシート

質量グループ 0、0 +に相当します。

チャイルドシート

質量グループ 0 +、Ⅰに相当します。

ジュニアシート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

*[1] チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

チャイルドシートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

知識

- お子さまに適切なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

分割乗用タイプリヤシート装着車

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0（10kgまで）	×	U
0+（13kgまで）	×	U
Ⅰ（9～18kg）	UF※	U※
Ⅱ（15～25kg）	UF※	U※
Ⅲ（22～36kg）	UF※	U※

●記号の説明

U　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートが取り付け可能です。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートが取り付け可能です。

×　：チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉して、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルドシートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

ベンチタイプリヤシート装着車

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0(10kgまで)	×	×
0+(13kgまで)	×	×
Ⅰ(9～18kg)	UF※	×
Ⅱ(15～25kg)	UF※	×
Ⅲ(22～36kg)	UF※	×

●記号の説明

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの前向きチャイルドシートが取り付け可能です。

×　：チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレスト装着車
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉して、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルドシートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

知識

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- UN（ECE）R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルドシートには、次の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。

ISO*1 FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

この車には、ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーが装備されていないため、ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーによるチャイルドシートの取り付けはできません。

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0(10kgまで)	E	ISO/R1	×
0+(13kgまで)	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I(9～18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	×
	B1	ISO/F2X	×
	A	ISO/F3	×
II(15～25kg)		ー	×
III(22～36kg)		ー	×

●記号の説明
×　：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

*1 International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

チャイルドシートの固定のしかた

⚠ 警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルドシートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。
  必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを取り付けたときは、チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートに固定しておいてください。また、ラゲージルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

● 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。

チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは

● 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

（正しい運転姿勢→ 38 ページ）

⚠ 注意

● 標準装備のシートベルトは大人用です。肩部ベルトが首にかかるような小さなお子さまにはシートベルトの着用はさけ、チャイルドシートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。

● シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

⚠ 注意

チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シートベルトによる固定 *1

▼ 取り付けかた

1 チャイルドシートをリヤシートに置く

- ヘッドレストにチャイルドシートが干渉する場合、ヘッドレストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外してデッキサイドポケットに収納します。

2 シートベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルドシートの中に通す

3 バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定する

5 チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

*1 固定のしかたは代表例です。また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります。

⚠ 警告

- チャイルドシートを固定したあと、シートベルトでチャイルドシートがロックされていることを必ず確認してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

知識

- ロッキングクリップの取り付けは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
  また、ロッキングクリップの購入については、トヨタ販売店にご相談ください。

助手席にチャイルドシートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席シートを次のように調整し、必ず前向きにチャイルドシートを取り付けてください。
  - シートを後方いっぱいまでスライドさせる
  - 背もたれを直立状態にする
  - ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストにチャイルドシートが干渉する場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS*[1] エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束するはたらきと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

❶ 運転席 SRS エアバッグ

運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

❷ 助手席 SRS エアバッグ

助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

*[1] Supplemental Restraint System（サプリメンタルレストレイントシステム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です

作動する場合

SRS エアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。（同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します）

また、次のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRS エアバッグが作動することがあります。

● 高速で縁石などに衝突したとき

● ジャンプして地面に衝突したとき

● 深い穴や溝に落ち込んだとき

作動しない場合

次のときは、SRS エアバッグが作動しません。

● エンジンスイッチが“LOCK”、“ACC”のときに衝突したとき

● SRS エアバッグ警告灯点灯時

次のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

● コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速度で正面衝突したとき

● 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

● 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

● 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき

次のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

● 側面や後方から衝撃を受けたとき

● 車両が横転、転覆したとき

SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。

（正しいシートベルトの着用 → 39 ページ）

- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS エアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席 SRS エアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRS エアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRS エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席 SRS エアバッグについては必ず次の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートなどをリヤシートに装着して使用してください。

⚠ 警告

● 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席 SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。

（チャイルドシート→ 44 ページ）

● SRS エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かず SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。

● SRS エアバッグの上やその周辺に物を置いたり、取り付けたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- ステアリングパッド、インストルメントパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、次の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドガラスが破損することがあります。
- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。
- 次のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき

⚠ 警告

- お車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

SRS エアバッグ コンピューター

SRS エアバッグを制御する装置です。

⚠ 警告

- SRS エアバッグコンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。SRS エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグコンピューターには、水、飲み物などをかけないでください。
- SRS エアバッグコンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRS エアバッグが一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

MEMO

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉

キー …… 62
キーレスエントリー …… 64
ドア …… 65
スライドドア …… 69
バックドア …… 72
パワーウインド …… 76
手動式ウインド …… 78
給油のしかた …… 79

車体各部の調整

フロントシート …… 82
リヤシート …… 85
ヘッドレスト …… 91
シートアレンジ …… 93
ルームミラー …… 94
ドアミラー …… 94

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠・解錠などお車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

キーレスエントリー装着車以外

▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、キーが 2 枚付いています。

キーレスエントリー装着車

▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、メインキー 1 枚とスペアキー 1 枚が付いています。

キーナンバープレート

キーナンバーは、キーではなくプレートに打刻しています。

● プレートは、お客様以外にキーナンバーがわからないように、車両以外の場所に大切に保管してください。

キーの取扱い

知識

スペアキーについて

- 大切に保管しておいてください。

キーのご購入について

- キーレスエントリー装着車のメインキーは4枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはトヨタ販売店にご相談ください。

万一キーを紛失したときは

- キーナンバーをトヨタ販売店にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーレスエントリー装着車

⚠ 注意

故障を防ぐために

- メインキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので次のことをお守りください。
  - 直射日光や高温下に放置しない
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
  - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

知識

航空機に乗るときは

- 航空機にメインキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

メインキーの電池寿命について

- 1日10回程度の乗降で約2年です。
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。
  早めに電池を交換してください。
  （キーの電池交換→278ページ）

キーレスエントリー

オプション／グレード別装備

メインキーのスイッチを押すことで、ドアの施錠・解錠ができます。

（リモコン操作による施錠・解錠→ 66 ページ）

作動範囲

知識

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

キーレスエントリーが正常に作動しないおそれのある状況

- 近くに次のような強い電波を発生する設備があるとき
  - TV 塔
  - 発電所
  - 放送局

ドア

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。
  ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物がお車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- お車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人でお車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

知識

- ドアを解錠した直後にドアハンドルを引くと、ドアが開かないことがあります。その場合は、もう一度ドアを解錠しなおしてから、ドアハンドルを引いてください。

お車から離れるときは

- キーは必ず運転者が携帯し、車内に置き忘れないようにしてください。
- ドアハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などをお車の中に置いたままにしないでください。

リモコン操作による施錠・解錠

キーレスエントリー装着車

▼ 操作方法

❶ すべてのドアが施錠

❷ すべてのドアが解錠

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

- キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれているとき

ドアの施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

ドアのタイマーロック機能について

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

ドアの施錠・解錠の合図（アンサーバック）

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を行うと、非常点滅灯の点滅でお知らせします。

施錠：1 回

解錠：2 回

知識

- ドアの施錠・解錠と連動して、室内照明（スイッチ位置が“DOOR”のとき）は点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 231 ページ）
- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

車外からキーを使用した施錠・解錠

▼ 操作方法

キーを確実に差し込みます。

❶ 施錠

❷ 解錠

車内からの施錠・解錠

▼ 操作方法

❶ 施錠

❷ 解錠

車外からキーを使用しない施錠

フロントドア

▼ 操作方法

プッシュボタンを押し下げます。

- 運転席ドア：車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めると施錠される
- 助手席ドア：ドアを閉めると施錠される

スライドドア

（車外からキーを使用しない施錠→ 70 ページ）

知識

- キーを使用せずにドアを施錠するときは、キーを手に持っていることを確認してからドアを閉めてください。
  キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。

パワードアロック

運転席ドアを施錠・解錠すると、連動してすべてのドアが施錠・解錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーレスエントリー装着車

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

キーがエンジンスイッチに差し込まれているときに作動します。

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのプッシュボタンを施錠方向に押し下げ、車外の運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアのプッシュボタンを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

知識

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

スライドドア

⚠警告

走行中の警告

● 走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

お子さまを乗せているときは

● お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にドアが動き出したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあり危険です。

ドアを開閉するときは

● スライドドアを開閉するときは、次のことをお守りください。ドアで手・頭・首を挟むなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- スライドドア周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- スライドドアのレール、アーム、およびピラー部には手足をかけないでください。

- スライドドアのウインドガラスを開けたまま開閉するときは、ウインドから手足や顔を出さないでください。
- スライドドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。開け方が不完全で固定されていないと、不意に動き出すことがあり危険です。
- スライドドアを閉めるときは指などを挟まないよう、十分に注意してください。

⚠ 警告

傾斜地では

- 傾斜地でスライドドアを開閉するときは、次のことをお守りください。ドアが不意に動き出すことがあり、手・頭・首を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - スライドドアは必ず全開（ストッパーがかかり、固定される位置）にしてください。
  - スライドドアを開けたままにしないでください。

  - 乗り降りの途中でドアハンドルを操作しないでください。
  - スライドドアの開閉スピードが速くなりますので、注意してください。

⚠ 注意

スライドドアについて

- スライドドアのリヤステップ下のレールに、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

スライドドアの施錠・解錠

次の方法で施錠・解錠ができます。

リモコン操作による施錠・解錠

（リモコン操作による施錠・解錠→ 66 ページ）

キー

（車外からキーを使用した施錠・解錠 → 67 ページ）

車外からキーを使用しない施錠

▼ **操作方法**

1 プッシュボタンを押し下げる

2 ドアを閉めると、施錠される

車内からの施錠・解錠

▼ **操作方法**

❶ 施錠

❷ 解錠

パワードアロック

（パワードアロック→ 68 ページ）

スライドドアの開閉

次の方法でスライドドアを手動で開閉することができます。

車外からの開閉

▼ 操作方法

❶ ドアハンドルを引いて開く

❷ ドアハンドルを引いて閉じる

● ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引き、スライドドアを車両前方に操作して閉じてください。

車内からの開閉

▼ 操作方法

❶ ドアハンドルを引いて開く

❷ ドアハンドルを引いて閉じる

● ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引き、スライドドアを車両前方に操作して閉じてください。

バックドア

⚠ 警告

走行するときは

- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前はバックドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはバックドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病になるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックドアを開閉するときは

- バックドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、次のことをお守りください。ドアで頭をぶつけたり、首や手を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - バックドア周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - バックドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - バックドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
  - バックドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。

⚠ 警告

- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバックドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

- バックドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バックドアを支えているダンパーステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正用品以外のアクセサリーを取り付けないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

⚠ 注意

ダンパーステーについて

- バックドアには、ドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
  - ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。

  - 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

⚠ 注意

ストライカーバーについて

● バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

バックドアの施錠・解錠

次の方法で施錠・解錠ができます。

リモコン操作による施錠・解錠

（リモコン操作による施錠・解錠→ 66 ページ）

キー

▼ 操作方法

キーを確実に差し込みます。

❶ 施錠

❷ 解錠

パワードアロック

（パワードアロック→ 68 ページ）

バックドアを開けるときは

▼ 操作方法

アウターハンドルを引いて、バックドアをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。

バックドアを閉めるときは

▼ 操作方法

1 バックドアストラップバンドを持ってバックドアを途中までゆっくりと下げる

2 バンドから手を離して、バックドアを上から手で押さえつけるように閉める

3 半ドアでないことを確認する

⚠ 警告

- バックドアストラップバンドを使ってバックドアを最後まで閉じようとしないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。バックドアは、必ず外から押して閉めてください。

パワーウインド

オプション／グレード別装備

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

⚠ 注意

故障を防ぐために

- 次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。
  - 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさない
  - ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドスイッチを押し続けない
  - ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドスイッチの“開”または“閉”を連続操作しない

バッテリーあがりを防ぐために

- パワーウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

知識

- スライドドアが開いている状態では、スライドドアのウインドガラスを開閉することはできません。

パワーウインドモーターの過熱保護機能について

- パワーウインドモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

運転席ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでドアガラスを開閉できます。

▼ 閉じかた

● スイッチを軽く引き上げる

▼ 開きかた

● スイッチを軽く押し下げる

※オプション/グレード別装備

運転席ドアウインドスイッチ（AUTO）操作

▼ 自動全閉

● スイッチを「カチッ」と音がするまで引き上げる

▼ 自動全開

● スイッチを「カチッ」と音がするまで押し下げる

▼ 途中で止めるときは

● スイッチを軽く逆方向に操作する

助手席ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチで助手席ドアガラスを開閉できます。

▼ 閉じかた

● スイッチを引き上げる

▼ 開きかた

● スイッチを押し下げる

スライドドアスイッチ

オプション／グレード別装備

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでスライドドアガラスを開閉できます。

▼ 閉じかた

● スイッチの上側を押す

▼ 開きかた

● スイッチの下側を押す

知識

● スライドドアガラスは全開になりません。

パワーウインド OFF スイッチ

▼ 操作方法

スイッチの右側（❶）を押すと“OFF”になり、運転席ウインドガラス以外は操作できなくなります。

スイッチの左側（❷）を押すと解除されます。

手動式ウインド

オプション／グレード別装備

ハンドルを回してフロントドア、スライドドアガラスの開閉を行うことができます。

▼ 操作方法

〈運転席側〉

〈助手席側〉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

● お子さまに手動式ウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

● スライドドアガラスは全開になりません。

給油のしかた

▼ 給油をする前に

⚠ 警告

● 燃料は引火しやすいため、次のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- エンジンは必ず止めてください。
- お車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
- フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

⚠ 警告

- フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- トヨタ純正フューエルキャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

● 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠ 注意

● 指定燃料は無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンです。

- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

● 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。

● こぼれた燃料がお車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。
付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。

フューエルリッドの開閉

▼ フューエルリッドの位置

メーター内にフューエルリッドの車両取り付け方向を示しています。

▼ 開けかた

運転席右下にあるオープナーレバーを矢印の方向に動かします。

▼ 閉めかた

リッドを押して閉めます。

フューエルキャップの開閉

▼ 開けかた

左に回します。

▼ 閉めかた

「カチッ」という音が一度するまで、右に回します。

▼ 給油するときは

外したフューエルキャップをフューエルリッド裏面のハンガーにかけることができます。

車体各部の調整

フロントシート

▼ 操作方法

❶ リクライニング操作

- レバーを引き上げながら、背もたれ角度を調整します。

❷ スライド操作

- レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

ヘッドレスト一体式シート装着車

ヘッドレスト分離式シート装着車

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートを調整するときは

- 次のことを守ってください。
  守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
  - 手足を挟んだり、体に当たらないように十分注意する
  - シートの下や動いている部分に手足を近付けない
  - 同乗者や物に当てない

背もたれを調整するときは

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- リクライニングレバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

助手席前倒し機構

オプション／グレード別装備

▼ 背もたれを前に倒すとき

1 スライドレバーを引き、シートを一番後ろまでスライドさせる

2 リクライニングレバーを矢印の方向に動かしながら、背もたれを前に倒す

⚠ 注意

- 助手席を前倒しした状態で、荷物を積むときは、鋭利な物が助手席の背もたれに当たらないようにしてください。
  背もたれの表皮が傷付くおそれがあります。

▼ 背もたれを元に戻すとき

1 そのまま背もたれを引き上げる

2 スライドレバーを操作し、シート位置を調整する

リヤシート

分割乗用タイプ

ベンチタイプ

⚠ 警告

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出され、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

リヤシートの格納

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

背もたれを前倒しするとき

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートを元に戻したあとは

- 確実にシートをロックさせてください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートの背もたれを起こしたあとは、背もたれが確実に固定されていることを確認してください。背もたれが固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

シートを元に戻すときは

- リヤシートを戻す前に、フロアのシート固定部周辺に異物がないことを確認してください。異物があると、ロックができなかったり、ロック機構が損傷したりするおそれがあります。

分割乗用タイプ

ベンチタイプ

分割乗用タイプ

左右独立して格納することができます。

知識

- 背もたれを操作するときにハンドルの操作力が重いときは、背もたれを軽く前方に押しながら操作してください。

▼ 操作方法

1 リヤシートのヘッドレストを外す

（リヤヘッドレスト→ 92 ページ）

2 ハンドルを引き、背もたれを前に倒す

- リヤシートの背もたれを前に倒したときは、背もたれが確実に固定されていることを確認してください。

3 背もたれとシートクッションの間からバックルを抜き取る

4 ベルトを引きながらシートを少し持ち上げ、前方へ移動させて後席足元に格納する

- 格納するときは、必ずベルトを持って操作してください。

5 マットの下にバックルを収納する

6 ヘッドレストをデッキサイドポケットに収納する

▼ 元に戻すときは

1 シートをいったん斜め前へ引き上げ、脚を立てたあと（❶）、後方に移動させ真上からロックする（❷）

2 収納したバックルを取り出し、背もたれとシートクッションの間に通す

3 ハンドルを引き、背もたれを「カチッ」と音がするまで起こす

4 ベルトがねじれないように、バックルの表側を上向きにしてシートクッションに置く

5 ヘッドレストを取り付ける

ベンチタイプ

▼ 操作方法

1 ベルトを引きながら、背もたれを前に倒す

2 バックルを背もたれとシートクッションの間から抜き取り、マットの下に収納する

3 レバーを上げながら、シートを持ち上げ、前方へ回転させる

知識

● シートを回転するときは、背もたれが開かないように手を添えてください。

▼ 元に戻すときは

1 シートを後方へ回転させてロックする

2 収納したバックルを取り出し、背もたれとシートクッションの間に通す

3 背もたれを「カチッ」と音がするまで起こす

4 ベルトがねじれないように、バックルの表側を上向きにしてシートクッションに置く

ヘッドレスト

フロントヘッドレスト

オプション／グレード別装備

ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるようにヘッドレストの高さを調整します。

▼ 上下調整

❶ 上げる

❷ 下げる

下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

ストッパーを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

リヤヘッドレスト

オプション／グレード別装備

使用するときは、常に上げた位置にしてください。

▼ 上下調整

❶ 上げる

❷ 下げる

下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

ストッパーを押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- リヤシートに人を乗せるときは、ヘッドレストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

シートアレンジ

分割乗用タイプ

フルフラットシート

▼ 操作方法

1 リヤシートの背もたれを水平になるまで倒す
2 フロントシートのヘッドレストを外す
3 フロントシートを前方へスライドさせる
4 フロントシートの背もたれをリヤシートと同じ高さになるまで倒す

▼ 元に戻すときは

逆の手順で操作します。

⚠ 警告

● 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

フルフラットシートのときは

● 人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

⚠ 注意

フルフラットシートのときは

● シートの上を動き回ったりしないでください。
● シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
● 安全な場所にお車を止めて休息するときに使用してください。

ルームミラー

角度調整のしかた

ルームミラー全体を持って、角度を調整します。

⚠ 警告

- 走行中は、ルームミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

⚠ 警告

- 調整は必ず走行前に行ってください。走行中にミラーの調整を行うと、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- 汚れた手で調整しないでください。鏡面に汚れが付くと夜間など後方からのランプが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

手動式

オプション／グレード別装備

ミラーの角度調整、格納を手で行います。

▼ 調整のしかた

ドアミラー全体を動かして角度を調整します。

▼ 格納のしかた

ミラーは後方に倒して格納することができます。走行するときは必ず元に戻してください。

電動格納式

オプション／グレード別装備

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにミラーの角度調整と格納・復帰することができます。

鏡面の角度調整のしかた

▼ 操作方法

1 左右切り替えスイッチの調整する側を押す

2 調整スイッチで、ミラーの角度を調整する

知識

鏡面の角度調整をしないときは

- 左右切り替えスイッチを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 中立（中央）の位置にすると調整操作ができません。

ドアミラーの格納・復帰のしかた

▼ 操作方法

- ミラー格納スイッチを押して格納する
- スイッチをもう一度押すと復帰する

MEMO

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯

警告灯 …… 99

表示灯 …… 107

メーターのはたらき

メーター …… 111

マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 113

スイッチの使いかた

ランプスイッチ …… 119

ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 125

フォグランプスイッチ …… 126

ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 127

ホーンスイッチ …… 129

方向指示スイッチ …… 129

非常点滅灯スイッチ …… 130

警告灯、表示灯

警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

スマートアシストⅢ装着車以外

スマートアシストⅢ装着車

警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

⚠ 警告

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
- エンジンオイルの量が少なくなると警告灯が点灯します。走行中に点灯したときは、エンジンを故障させないために高回転まで回らなくなります。
  ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

知識

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイルレベルゲージで行ってください。
  （オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンスノート」参照）

充電警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

駐車ブレーキ未解除警告灯

エンジンスイッチが“ON”で、駐車ブレーキがかかっていると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。

警告ブザー

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。
- 駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

ブレーキ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
  - ブレーキ液の液量が不足しているとき
  - EBD 制御に異常があるとき

（ABS（EBD 機能付）→ 152 ページ）

⚠ 警告

点灯したまま消灯しないときは

- ブレーキ液量の不足が考えられます。この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
  効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
  ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

水温警告灯（赤色）

- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠ 注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。
  （オーバーヒートの処置→ 310 ページ）

📖 知識

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。
  （水温表示灯（青色）→ 108 ページ）

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

オートマチックトランスミッション警告灯

オートマチック車

（点滅）

エンジンスイッチが“ON”で、オートマチックトランスミッションシステムに異常があると点滅します。

注意

点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シートベルト締め忘れ警告灯（運転席）

（点滅）

- エンジンスイッチが“ON”で、運転席の乗員がシートベルトを着用していないと点滅します。
- エンジンスイッチが“ON”でシートベルトを着用すると消灯します。

警告ブザー

シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h 以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- 警告ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯

エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 警告

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
  消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が約 6ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点滅した後、点灯します。

（燃料計→ 112 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。

知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが鳴ります。

ABS 警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- ABS

（ABS（EBD 機能付）→ 152 ページ）

- ヒルホールドシステム
（VSC & TRC 装着車以外）

（ヒルホールドシステム→ 160 ページ）

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABS に異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABS としての作動はしません）、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯を繰り返す場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRS エアバッグ

（SRS エアバッグ→ 53 ページ）

- プリテンショナー機構

（プリテンショナー機構→ 41 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートハイビーム警告灯（黄色）

スマートアシストⅢ装着車

（オートハイビーム警告灯（黄色）→ 124 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

スマートアシスト故障警告灯

スマートアシストⅢ装着車

スマアシ故障

（スマートアシスト故障警告灯→ 190 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

スマートアシスト停止警告灯

スマートアシストⅢ装着車

スマアシ
停止1 1E

（スマートアシスト停止警告灯→ 190 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

電動パワーステアリング警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると赤色に点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、電圧不足、電動パワーステアリングシステム過熱によりパワーステアリング制御が制限されると、黄色に点灯します。

⚠ 注意

赤色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が停止し、ハンドル操作が非常に重くなります。
  ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

黄色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。
  消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなることがあります。
  しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。

VSC & TRC 警告灯

VSC & TRC 装着車

（VSC & TRC 警告灯→ 157 ページ）
（VSC → 154 ページ）
（TRC → 155 ページ）
（ヒルホールドシステム→ 160 ページ）

マスターウォーニング

スマートアシストⅢ装着車

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
  - スマートアシストⅢに異常があるとき
  - スマートアシストⅢが作動したとき *1

（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

注意

点灯した場合

- スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が同時に点灯したときは、オートハイビームを除くスマートアシストⅢは作動しません。通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

（スマートアシスト OFF 表示灯
→ 189 ページ）
（車線逸脱警報 OFF 表示灯→ 189 ページ）

*1 衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキと２次ブレーキ、誤発進抑制制御、後方誤発進抑制制御が作動したときに点灯します。

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠ 警告

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

方向指示表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

- エンジンスイッチに関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、自動で非常点滅灯が高速点滅し、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

（エマージェンシーストップシグナル
→ 199 ページ）

知識

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

フォグランプ表示灯

オプション／グレード別装備

エンジンスイッチに関係なく、フォグランプを点灯させると点灯します。

（フォグランプスイッチ→ 126 ページ）

テールインジケーター

エンジンスイッチに関係なく、車幅灯を点灯させると点灯します。

水温表示灯（青色）

エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠ 注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

（水温警告灯（赤色）→ 101 ページ）

O/D OFF 表示灯

オートマチック車

エンジンスイッチが“ON”で、オーバードライブを“OFF”の状態にすると点灯します。

（オーバードライブスイッチ→ 147 ページ）

⚠ 注意

点滅した場合

- オートマチックトランスミッションシステムの異常が考えられます。
  ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

(オートマチックトランスミッション警告灯 → 102 ページ)

eco IDLE 表示灯

（eco IDLE 表示灯 → 207 ページ）

eco IDLE OFF 表示灯

（eco IDLE OFF 表示灯→ 207 ページ）

スリップインジケーター

VSC & TRC 装着車

（点滅）

（スリップインジケーター→ 157 ページ）
（VSC → 154 ページ）
（TRC → 155 ページ）

VSC OFF 表示灯

VSC & TRC 装着車

（VSC OFF 表示灯→ 158 ページ）
（VSC → 154 ページ）

TRC OFF 表示灯

VSC & TRC 装着車

（TRC OFF 表示灯→ 158 ページ）
（TRC → 155 ページ）

4WD 表示灯

4WD 車

エンジンスイッチが“ON”の位置で、4WD 走行の状態にすると点灯します。

（4WD スイッチ→ 150 ページ）

ブレーキオーバーライドシステム表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム
→ 133 ページ）

知識

点灯した場合

- アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。

スマートアシスト作動灯

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト作動灯→ 188 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

車線逸脱警報作動灯

スマートアシストⅢ装着車

（車線逸脱警報作動灯→ 188 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

スマートアシスト OFF 表示灯

スマートアシストⅢ装着車

（スマートアシスト OFF 表示灯→ 189 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

車線逸脱警報 OFF 表示灯

スマートアシストⅢ装着車

（車線逸脱警報 OFF 表示灯→ 189 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

オートハイビーム作動灯（緑色）

スマートアシストⅢ装着車

（オートハイビーム作動灯（緑色）→ 124 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 161 ページ）

メーターのはたらき

メーター

警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。

スマートアシストⅢ装着車以外

スマートアシストⅢ装着車

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

燃料計

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を表示します。

- 燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

（燃料残量警告灯→ 103 ページ）

⚠ 注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。

シフトインジケーター

オートマチック車

エンジンスイッチが“ON”のとき、使用中のシフトレバーの位置が点灯します。

- “R”レンジにすると、“[ ]”が点滅します。

メーター照明

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“ACC”または“LOCK”にすると、消灯します。
- メーター照明には昼間用と夜間用があり、次のときに切り替わります。

昼間用

- 周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき

夜間用

- 周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

- 夜間用になると、指針と文字盤の照明が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイとエコインジケーター（オプション／グレード別装備）の照明が減光します。

知識

- メーター照明の照度は調整することができます。また、夜間用になったときに、減光しないようにすることもできます。

（照度調整→ 117 ページ）

- ランプの点灯・消灯の確認は、テールインジケーターで行ってください。

（テールインジケーター→ 108 ページ）

エコインジケーター

オプション／グレード別装備

エコインジケーターの設定が“ILL On”のときに、走行状態に応じてエコ運転 *1 の度合いを判定し、メーター照明色が変化します。

- エンジンスイッチを“ON”にすると数秒間、グリーン色に点灯します。
- シフトレバーが“D”レンジのとき、走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、エコインジケーターの照明色が変化します。

*1 二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転

● eco IDLE によるアイドリングストップ中はグリーン色になります。

（eco IDLE（エコアイドル）→ 200 ページ）

エコ運転度合	照明色			エコ運転度合
	アンバー	イエロー	グリーン	
低	←→			高

● “ILL OFF” のときは、アンバーのまま照明色は変化しません。

（エコインジケーターの表示設定 → 117 ページ）

マルチインフォメーションディスプレイ

エンジンスイッチが “ON” のとき、走行に関するさまざまな情報をメーターのディスプレイ部に表示します。

操作方法

▼ ODO/TRIP DISP スイッチ

● ODO/TRIP DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

▼ ODO/TRIP DISP スイッチによる切り替わりかた

※1 スマートアシストⅢ装着車
※2 エコインジケーター装着車

オドメーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

トリップメーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

●トリップメーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

▼ 表示をリセットするには

●リセットするトリップメーター（A または B）を表示させ、ODO/TRIP DISP スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

平均燃費計

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

〈スマートアシストⅢ装着車以外〉

〈スマートアシストⅢ装着車〉

▼ 表示をリセットするには

平均燃費を表示させ ODO/TRIP DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

知識

●エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。

●最大表示は、「99.9km/L」です。

●表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

航続可能距離

スマートアシストⅢ装着車

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。

知識

●航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を給油してください。

●表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。

知識

- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされます。

外気温

スマートアシストⅢ装着車

外気温度を表示します。

▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3℃以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

（点滅）

知識

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、外気温が表示されないことがあります。
- 表示範囲は、「－ 30 ～ 50℃」です。
- 異常検出したときの表示は、「－－℃」です。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
  - 停車しているときや低速走行しているとき
  - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

アイドリングストップ時間

エンジンスイッチを“ON”にしてからのeco IDLEによるアイドリングストップ時間を表示します。

〈スマートアシストⅢ装着車以外〉

〈スマートアシストⅢ装着車〉

▼ 表示をリセットするには

- エンジンスイッチを“LOCK”にすると、表示がリセットされます。
- リセット後、エンジンスイッチを“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼ 自動表示について

アイドリングストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、eco IDLEによるアイドリングストップ中に、自動で表示します。

知識

アイドリングストップ時間自動表示を解除するには

- アイドリングストップ時間を表示させ、ODO/TRIP DISPスイッチを約1秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約1秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	eco IDLEによるアイドリングストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

アイドリングストップ積算時間

表示をリセットしてからの eco IDLE による アイドリングストップ積算時間を表示します。

〈スマートアシストⅢ装着車以外〉

〈スマートアシストⅢ装着車〉

▼ 表示をリセットするには

- アイドリングストップ積算時間を表示させ、ODO/TRIP DISP スイッチを押し続けると、表示が “00:00:00” になります。

エコインジケーターの表示設定

エコインジケーター装着車

ILL On（または ILL OFF）を表示させて、ODO/TRIP DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“ILL On”、“ILL OFF” が切り替わります。

（エコインジケーター→ 112 ページ）

照度調整

メーター照度を調整します。

▼ 操作方法

照度調整表示中、ODO/TRIP DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい	oooo	レベル1
↕	ooo_	レベル2
↕	oo__	レベル3
暗い	o___	レベル4

▼ 照度調整

メーター照明は、昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用（エコインジケーター装着車）

周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。

夜間用

周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

知識

- 昼間用は、エコインジケーターのみの調整になります。
- 夜間用の設定を “レベル 1” にすると、夜間用になったときに、メーター照明が減光しません。

時計

オプション／グレード別装備

エンジンスイッチが“ON”のとき、時計を表示します。

● 時計調整スイッチを押して、時計を調整します。

▼“時”を調整する

時計調整“H”スイッチを押します。

● スイッチを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

▼“分”を調整する

時計調整“M”スイッチを押します。

● スイッチを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

▼ 時報“:00”に合わせる

時計調整“H”スイッチと“M”スイッチを同時に約1秒以上押します。

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00

（例）1:30 ～ 1:59 → 2:00

● 時報合わせが完了すると、“時”“分”が 2 回点滅します。

（点滅）

知識

● バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。

● 時刻の表示は、12 時間表示です。

スイッチの使いかた

ランプスイッチ

ランプの点灯

自動または手動でヘッドランプ、車幅灯などが点灯・消灯します。

▼ 操作方法

● エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチを操作すると、下表のランプ類が点灯・消灯します。

スイッチ位置＼ランプ		前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
❶	AUTO	自動点灯･消灯	
❷	≡D	点灯*1	
❸*2、3	○(OFF)	消灯	点灯
❹*2、4		消灯	

*1　エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のときも点灯します。
*2　スイッチを“OFF”の位置にして手を離すと、“AUTO”の位置に戻ります。
*3　車速が約3km/h 以下で自動点灯しているとき
*4　車速が約3km/h 以下で自動点灯しているときに、スイッチを約1秒以上操作したとき

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジン停止中は、ランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

ランプ類の再点灯について

スイッチを“OFF”の位置にしてランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 車速が約 3km/h を超えたとき
- 再度スイッチを“OFF”にしたとき
- エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

知識

- オートライトセンサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

ヘッドランプの切り替え

▼ ハイビームに切り替える

- 前照灯が点灯しているときにレバーを押します。（❶）
  （戻すと下向き（ロービーム）になります）

▼ 一時的に使用する

- 前照灯が消灯していても、レバーを手前に引いている間（❷）、前照灯が上向きに点灯します。
  （レバーを離すと下向き（ロービーム）または消灯します）

⚠ 警告

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

オートハイビーム

スマートアシストⅢ装着車

フロントウインドガラス上部に設置されたステレオカメラにより、対向車、または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

（ステレオカメラ→ 164 ページ）

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

- オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

オートハイビームを正しく作動させるために

- 荷物を積みすぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

▼ 使用方法

1 エンジンスイッチが“ON”で、ランプスイッチが“AUTO”または“≣D”の位置のときレバーを前方へ押す

- ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

2 オートハイビームスイッチを押す

- オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯（緑色）が点灯します。

（オートハイビーム作動灯（緑色）→ 124 ページ）

自動切り替え条件について

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームに切り替わります。
  - 車速が約 25km/h 以上
  - 車両前方が暗い
  - 対向車、または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
  - 前方の街灯が暗い
- 次のいずれかの条件になると、ロービームに切り替わります。
  - 車速が約 20km/h 以下
  - 車両前方が明るい
  - 対向車、または先行車がランプを点灯している
  - 前方の街灯が明るい

手動切り替え方法

▼ ロービームへの切り替え

レバーを元の位置に戻します。

- オートハイビーム作動灯（緑色）が消灯します。

オートハイビームに戻すには、再度レバーを前方に押します。

▼ ハイビームへの切り替え

オートハイビームスイッチを押します。

- オートハイビーム作動灯（緑色）が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

オートハイビームに戻すには、再度スイッチを押します。

⚠ 注意

オートハイビーム警告灯（黄色）が点灯したときは

● オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

（オートハイビーム警告灯（黄色）→124 ページ）

知識

● 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

● 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

● オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識するため、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

● 自転車などの軽車両は認識しない場合があります。

● 次の状況では、周囲の明るさが正しく認識されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- フロントガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

オートハイビーム作動灯（緑色）

● エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームが作動したときに緑色に点灯します。

知識

オートハイビームに異常があるときは

● 警告灯としてはたらき、黄色に点灯します。

（オートハイビーム警告灯（黄色）→ 124 ページ）

オートハイビーム警告灯（黄色）

● エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

● エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームに異常があるときに点灯します。

注意

点灯した場合

● オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

オートハイビームが作動したときは

● 作動灯としてはたらき、緑色に点灯します。

（オートハイビーム作動灯（緑色）→ 124 ページ）

ランプ自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防ぐため、ランプ類を点灯したまま、エンジンスイッチを“ON”から“LOCK”または“ACC”にすると、ランプ類が自動で消灯します。

再びランプを点灯させる場合は、次の操作をします。

● エンジンスイッチを“ON”にする

または

● ランプスイッチを再度“≣D”の位置にする（ただし、節電機能がはたらき、約 10 分後に自動で消灯します）

知識

● 運転席ドアを開けたときに、自動で消灯するように機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

節電機能

車両のバッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”の状態でランプ類が点灯している場合、節電機能がはたらき約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

- ランプスイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”の状態で、ランプを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせます。

ヘッドランプマニュアル レベリングスイッチ

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

- ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
- 通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

▼ 調整方法

ダイヤルを回すと、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。

- ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。

● 乗員数や積載量に応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車で荷室満載時	2

知識

● 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。

● 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

フォグランプスイッチ

オプション／グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご使用ください。

▼ 点灯のしかた

● 車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にします。
（メーター内の表示灯が点灯します）

▼ 消灯のしかた

● スイッチを“OFF”にします。
（メーター内の表示灯が消灯します）

ワイパー・ウォッシャースイッチ

⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスが温まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を温めてください。

⚠ 注意

- 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。
モーターに負担がかかり故障の原因となります。

フロント

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

ワイパーの使いかた

レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。

❶ : 一時作動

❷ : 停止

❸ : 間欠作動

❹ : 低速作動

❺ : 高速作動

▼ 一時作動の使いかた

レバーを（❷）から（❶）の位置に押し上げている間、ワイパーが低速作動します。

手を離すと（❷）の位置に戻ります。

▼ 車速感応式フロント間欠ワイパー

レバーを（❸）の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

知識

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が短くなります。
- 車速感応作動の機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 寒冷地仕様車のワイパーは、雪がたまったときにワイパーの反転位置を切り替える機構になっています。この機構の作動中に「コン、コン」という音が発生しますが、異常ではありません。

ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

知識

- フロントウォッシャーを作動させると連動してフロントワイパーが低速作動します。

リヤ

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

ワイパーの使いかた

スイッチを回すと、リヤワイパーが作動します。

❶ : 低速作動

❷ : 約 4 秒間低速作動した後、間欠作動

❸ : 停止

知識

- 次のように、（❷）の間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
  - 間欠作動の間隔を変更する
  - 約 4 秒間の低速作動を停止する

ウォッシャー液の噴射

レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。

知識

- リヤワイパーが停止しているときにリヤウォッシャーを作動させると、リヤワイパーが作動するように機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

リバース連動リヤワイパー

フロントワイパーが作動中に、シフトレバーを“R”レンジにすると、リヤワイパーが数回作動します。

知識

- フロントワイパーが停止後、約 10 秒間はシフトレバーを“R”レンジに入れると、リヤワイパーが数回作動します。
- 機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ホーンスイッチ

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

方向指示スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを（❶）の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

- スイッチは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。消灯しないときは、レバーを（❷）の位置まで軽く操作してください。

車線変更などのときは、レバーを（❷）の位置で保持します。

- スイッチを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- （❷）の位置まで操作したあと、すぐに手を離したときは、3 回点滅します。

知識

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。
- 次のように機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
  - （❷）の位置まで操作したときの３回点滅を停止する
  - ３回点滅するときのスイッチ操作の時間を変更する
  - 右左折後に消灯するハンドル角度を変更する

非常点滅灯スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

お車を運転するにあたって

運転するときは
運転をする前に …… 132
運転のしかた …… 134
運転するときの注意事項 … 138
運転装置の使いかた
エンジンスイッチ …… 142
駐車ブレーキ …… 144
シフトレバー
（オートマチック車） …… 145
シフトレバー
（マニュアル車） …… 149
パートタイム4WD …… 150
ABS
ABS （EBD 機能付）…… 152
VSC & TRC
VSC …… 154
TRC …… 155
メーター表示 …… 157
VSC & TRC OFF
スイッチ …… 158
ヒルホールドシステム
ヒルホールドシステム …… 160
スマートアシストⅢ
スマートアシストⅢ …… 161
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者） …… 167
誤発進抑制制御機能
（前方・後方） …… 176
車線逸脱警報機能 …… 183
先行車発進お知らせ機能 … 186
メーター表示 …… 188
スマートアシスト OFF
スイッチ …… 193
コーナーセンサー
コーナーセンサー（リヤ）… 195
ブザー …… 198
エマージェンシーストップシグナル
エマージェンシー
ストップシグナル …… 199
アイドリングストップシステム
eco IDLE
（エコアイドル） …… 200
エコ発電制御
エコ発電制御 …… 212

運転するときは

運転をする前に

知っておいていただきたい、操作上の注意や特性があります。よく理解し、正しい取り扱いをしてください。

ターボ車

オプション／グレード別装備

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。

（eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

⚠ 注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

クラッチスタートシステム

マニュアル車

マニュアル車は、エンジン始動時の誤操作を防ぐために、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。

オートマチック車の特性

クリープ現象

オートマチック車は、エンジンがかかっているとき、シフトレバーが“P”、“N”レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 警告

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 停車中は、平坦路であってもお車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

キックダウン

走行中にアクセルペダルを踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

知識

- 追い越し時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。
- 上り坂でスピードを保つために、アクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転数が高くなることがあります。
  このようなときは、あらかじめ“2”レンジにしておくと、エンジン回転数の変化が少なく、なめらかな走行ができます。

ブレーキオーバーライドシステム

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、メーターに表示灯が点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム表示灯 → 109 ページ）

4WD 車

オプション／グレード別装備

⚠ 警告

- 4WD 車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 4WD 車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

パートタイム 4WD

4WD 車

4WD 車には特有の操作上の注意があります。150 ページのパートタイム 4WD も合わせてお読みください。

▼ 急なカーブを曲がるとき

4WD で走行中に旋回をすると、ブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。この現象は、旋回するとき前後輪に回転差が生じるために発生する 4WD 車特有の現象で、異常ではありません。
このとき、ハンドル操作が重くなります。

⚠ 警告

- 4WD での急旋回は、タイトコーナーブレーキング現象により、思わぬ事故につながるおそれがありますのでさけてください。

知識

- タイトコーナーブレーキング現象は、2WD に切り替えることで解消することができます。

4WD 車のタイヤについて

4WD 車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

（タイヤの点検→ 256 ページ）
（タイヤの交換→ 303 ページ）
（タイヤチェーンの装着→ 284 ページ）

運転のしかた

安全運転を心がけ、次の手順で走行してください。

- 運転手順のそれぞれに、注意していただきたいことがあります。
「運転するときの注意事項」も、必ずお読みください。

（運転するときの注意事項→ 138 ページ）

- 各運転装置の使いかたは次を参照ください。

（エンジンスイッチ→ 142 ページ）
（シフトレバー（オートマチック車）→ 145 ページ）
（シフトレバー（マニュアル車）→ 149 ページ）
（駐車ブレーキ→ 144 ページ）

エンジンをかける

▼ 準備

- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 38 ページ）
（車体各部の調整→ 82 ページ）

▼ 操作手順

オートマチック車

1 シフトレバーが“P”の位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

3 エンジンスイッチを“START”まで回す

マニュアル車

1 シフトレバーがニュートラルにあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

3 クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む

4 エンジンスイッチを“START”まで回す

イージースタートサポート

イージースタートサポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを“START”で保持する必要はありません。

- イージースタートサポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージースタートサポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

発進する

オートマチック車

1 ブレーキペダルを右足で踏んだままシフトレバーを“D”レンジに入れる

- 状況に応じて“2”または“L”レンジに、後退のときは“R”レンジに入れます。

2 駐車ブレーキを解除する

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする

2 駐車ブレーキを解除する

3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

坂道発進するときは

オートマチック車

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを“D”レンジに入れる

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏む

3 お車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

マニュアル車

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速に入れる

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

3 お車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

走行するときは

オートマチック車

▼ 通常走行するときは

● “D” レンジで走行します。

▼ 急加速が必要なときは

● アクセルペダルを踏み込みます。

- 自動的に変速比が切りかわり、力強い加速が得られます。（キックダウン）

▼ 強いエンジンブレーキを必要とするときは

● 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて “2” または “L” レンジに切り替えます。

マニュアル車

車速に応じて、シフト位置を変更します。

● クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んで、シフトレバーをゆっくり動かします。

停車する

オートマチック車

1 シフトレバーは走行位置のままで、ブレーキペダルをしっかり踏む

2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける

● 長時間停車する場合は、シフトレバーを “P” または “N” レンジに入れます。

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルをしっかり踏む

2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける

● 長時間停車する場合は、シフトレバーをニュートラルに入れます。

後退する

オートマチック車

お車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかり踏み続け、シフトレバーを “R” レンジに入れます。

マニュアル車

お車が完全に止まってからも、クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを “R” に入れます。

リバース警告ブザー

オートマチック車

シフトレバーを“R”レンジに入れると車内で警告ブザーが鳴り、運転者にシフトレバーが“R”レンジにあることを知らせます。（警告ブザーは車外には聞こえません）

駐車する

オートマチック車

1 シフトレバーを“D”レンジのまま、ブレーキペダルを踏む

2 お車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーを“P”レンジにする

4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回してキーを抜く

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

● 必要に応じて、輪止め *1 を使用してください。

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

2 お車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーをニュートラルにする

4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回してキーを抜く

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

● 必要に応じて、シフトレバーを 1 速（上り坂）または“R”（下り坂）にし、輪止め *1 を使用してください。

*1 輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

運転するときの注意事項

⚠ 警告

エンジンをかけるときは（オートマチック車では）

- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけるとお車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するときは

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

発進するときは（オートマチック車では）

- “P”レンジから“D”レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ずブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで“D”から“R”、“R”から“D”レンジと何度もシフトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全にお車を止めてから行ってください。
  完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために“P”から“R”、“N”から“D”、“N”から“R”レンジにシフトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかり踏んでから行ってください。

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキやクラッチ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

走行中は（オートマチック車では）

- 坂道などでは、シフトレバーを“D”、“2”、“L”レンジに入れたまま惰性で後退したり、“R”レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂を“D”レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
  このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。“2”または“L”レンジにしてエンジンブレーキを併用してください。
- お車が完全に止まらないうちに“P”レンジに入れないでください。また、前進走行中に“R”レンジ、および後退中は“D”、“2”、“L”レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行中は（マニュアル車では）

- 前進走行中は“R”に入れないでください。また、後退中は1速に入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車するときは

- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。

停車するときは（オートマチック車では）

- 上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりもお車が後退しようとする力の方が大きくなり、お車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退するときは

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは“R”レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐニュートラルに戻すよう習慣付けましょう。

駐車するときは

- エンジンをかけたままでお車から離れないでください。

⚠ 注意

エンジンをかけるときは

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。
- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。
  “START”にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。

発進するときは

- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

発進するときは（オートマチック車では）

- シフトレバーがどの位置にあるかをシフトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフトレバーが“P”、“N”レンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）

走行中は

- 走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
  同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
  （ブレーキオーバーライドシステム → 133 ページ）

駐車するときは

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- お車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”にしてキーを抜いてください。
  “ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約 1 分程度行ってください。
  （eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

駐車するときは（オートマチック車では）

- “P”レンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ず“P”レンジにあることを確認してください。

知識

エンジンをかけるときは

- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤウインドデフォッガー、ヒーターファンなどのスイッチは “OFF” にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただし駐車ブレーキ未解除警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。

走行中は（オートマチック車では）

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ

位置	はたらき
LOCK	・ハンドルロックがかかる位置 ・キーを抜き挿しする位置 （オートマチック車はシフトレバーがⓅレンジのとき、キーを抜き挿しできます）
ACC	アクセサリーソケットなどの電装品が使用できる位置
ON	すべての電装品が使用できる位置
START	エンジンを始動するときの位置

エンジンのかけかた

▼ 準備

● 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 38 ページ）
（車体各部の調整→ 82 ページ）

▼ 操作手順

オートマチック車

1 シフトレバーが“P”の位置にあることを確認する
2 ブレーキペダルをしっかり踏む
3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを“START”まで回す

マニュアル車

1 シフトレバーがニュートラルにあることを確認する
2 ブレーキペダルをしっかり踏む
3 クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む
4 クラッチペダルとブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを“START”まで回す

エンジンの停止方法

オートマチック車

1 車両を完全に停止させる
2 駐車ブレーキをかける
3 シフトレバーを“P”にする
4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回す
5 キーを抜く

マニュアル車

1 車両を完全に停止させる
2 駐車ブレーキをかける
3 シフトレバーをニュートラルにする
4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回す
5 キーを抜く

キーインターロック

オートマチック車

誤操作防止のため、シフトレバーが“P”レンジ以外のときに、エンジンスイッチが“LOCK”まで回らないようにする装置です。

⚠ 注意

- シフトレバーが“P”レンジ以外では、エンジンスイッチを“LOCK”まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

ハンドルロック

エンジンスイッチからキーを抜いて、ハンドルを左右どちらかに動かすとハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。

▼ ハンドルロック解除のしかた

ステアリングロックによりキーが“LOCK”から“ACC”に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- オートマチック車はシフトレバーが“P”レンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。
  シフトレバーが“P”レンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチを“LOCK”にできないため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

📖 知識

エンジンスイッチの操作について

- キーは確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

駐車ブレーキ

▼ かけるとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げる

● エンジンスイッチが“ON”のときは、駐車ブレーキ未解除警告灯が点灯します。

（駐車ブレーキ未解除警告灯→ 100 ページ）

▼ 解除するとき

レバーを軽く引き上げながらボタンを押し、レバーを確実に戻す

● エンジンスイッチが“ON”のときは、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯します。

⚠ 警告

● 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

● 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

（駐車ブレーキ未解除警告灯→ 100 ページ）

シフトレバー（オートマチック車）

シフトレバーの使いかた

オートマチック車

シフトレバーの操作は確実に行ってください。

⇩	ブレーキペダルを踏みながらシフトレバーボタンを押して動かします
⇧ ⇩	シフトレバーボタンを押して動かします
↑ ↓	シフトレバーボタンを押さずにそのまま動かします

⚠ 警告

- ➡ の操作は誤作動を防ぐため、シフトレバーボタンを押さずに動かしてください。常にシフトレバーボタンを押して操作していると、“P”、“R”、“L”レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- “P”から“D”レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中に“N”レンジに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が完全に止まらないうちに“P”レンジに入れないでください。また、前進走行中に“R”レンジ、および後退走行中に“D”、“2”、“L”レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- 走行開始直後でトランスミッションオイルの温度が低いとき、3速、4速へ自動変速しないことがあります。トランスミッションオイルの温度が上がれば自動変速するようになります。

各位置のはたらき

シフトポジション	目的
P(パーキング)	駐車またはエンジン始動
R(リバース)	後退
N(ニュートラル)	動力が伝わらない状態
D(ドライブ)	通常走行 (速度に応じて1速から4速*で自動的に変速されます)
2(セカンド)	下り坂走行、坂道や山間地などの走行 (エンジンブレーキが必要なとき)
L(ロー)	急な下り坂走行(強いエンジンブレーキが必要なとき)

＊ オーバードライブがOFFのときは3速

オーバードライブスイッチ

スイッチを押すごとに、“OFF”と“ON”が切り替わります。

● “OFF”のときにO/D OFF表示灯が点灯します。

▼ オーバードライブが“OFF”のとき（表示灯が点灯）

● 坂道走行で次のような場合に適しています。

- 下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいとき
- 上り坂で4速と3速の変速回数が少ない、なめらかな走行をしたいとき

▼ オーバードライブが“ON”のとき（表示灯が消灯）

● 通常走行に適しています。

- エンジン始動時にはオーバードライブが“ON”の状態になっています。

各位置のはたらき

オーバードライブ	メーター内表示	はたらき
OFF	O/D OFF	1速から3速まで自動変速します
ON	（消灯）	1速から4速（オーバードライブ）まで自動変速します

知識

● シフト位置が“D”レンジのときに使えます。

● エンジンを再始動するとオーバードライブが“ON”の状態になっています。

● トランスミッションの油温が低いときは、オーバードライブ（4速）に変速しないことがあります。

● オーバードライブ（4速）は静粛性、燃費性能が良くなります。

シフトロック機構

誤操作防止のため、シフトロック機構が付いています。

▼ シフトロック解除方法

エンジンスイッチを“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、シフトレバーの操作ができます。

- 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトレバーを操作します。

知識

- エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”のときは、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを“P”レンジからほかのレンジへは動かせません。
- 先にシフトレバーボタンを押した状態で、ブレーキペダルを踏むと、シフトロックが解除されない場合があります。
- 万一、エンジンスイッチを“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを“P”レンジから他の位置へ動かせないときは、シフトロック解除ボタンを使用してロックを解除してください。この場合はシフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

（シフトロック解除ボタン→ 148 ページ）

シフトロック解除ボタン

バッテリーあがりなどで、シフトレバーが“P”レンジからほかのレンジへ動かないときは、シフトロック解除ボタンを使用します。

▼ シフトロック解除方法

1 先端に布などを巻いた⊖ドライバーなどを差し込み、矢印の方向に動かしてカバーを取り外す

2 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトロック解除ボタンを先端に布などを巻いた⊖ドライバーなどで押しながらシフトレバーを操作する

シフトレバー（マニュアル車）

シフトレバーの使いかた

マニュアル車

シフト位置を変更するときは、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んで確実に操作します。

⚠ 注意

- “R”（後退）には、お車が完全に停止してからシフト位置を変更してください。トランスミッションに負担がかかり、故障の原因となります。

知識

- 5 速から“R”（後退）には、直接シフト位置を変更できません。一度ニュートラルにしてから、“R”（後退）にシフト位置を変更してください。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

(km/h)

シフトダウン	上限速度	
	ターボ車以外	ターボ車
2速→1速	25	25
3速→2速	40	40
4速→3速	65	60
5速→4速	105	100

⚠ 注意

- エンジンの回転があがりすぎないように、上限速度を守って走行してください。エンジンが損傷するおそれがあります。

パートタイム4WD

4WD 車

パートタイム 4WD とは、4WD スイッチの操作により走行状況に合わせて、2WD（2 輪駆動）と4WD（4 輪駆動）を切り替えることができる 4WD システムです。

⚠ 警告

- 乾燥した舗装路および高速道路では必ず 2WD で走行してください。4WD で走行すると駆動系に無理な力がかかり駆動装置が損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、タイヤの早期摩耗や燃料消費量の悪化につながることがあります。
- 車輪がスリップしているときは、4WD スイッチを操作しないでください。駆動系に無理な力がかかり駆動装置が損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD スイッチ

エンジンが回転中にスイッチを押すと、駆動状態を切り替えることができます。

- 駆動状態が4WD に切り替わると、メーター内の4WD 表示灯が点灯します。

▼ スイッチの操作方法

スイッチを押すごとに2WD と4WD が切り替わります。

- ハンドルが直進状態のときに操作します。
- 停車中または走行中（80㎞ /h 以下）でアクセルペダルを戻します。

各位置のはたらき

駆動状態	メーター内表示	はたらき
2WD	（消灯）	一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置 通常はこの位置で走行
4WD	**4WD**	砂地や不整地、急坂路、雪道等の滑りやすい路面を走行するときの位置

知識

4WD スイッチを操作するときは

- エンジンが回転中に操作してください。
  - eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エンジンが停止しているため、4WD、または 2WD に切り替わりません。エンジンを再始動し、操作してください。

  （eco IDLE（エコアイドル）→ 200 ページ）
- スイッチは連続操作しないでください。
- 操作するときは、アクセルペダルを戻してください。（切り替わりにくい場合は、その状態でアクセルペダルを軽く踏み込んでください）
- 暖機不足の状態で、4WD、または 2WD に切り替わりにくいときは、停車してスイッチを操作してください。
- 4WD、または 2WD に切り替えたとき、車両の状態（タイヤ空気圧、積載量、車速など）により、切り替えの作動音がすることがあります。

表示灯

4WD

- エンジンスイッチが“ON”で、駆動状態を 4WD に切り替えると点灯します。

知識

- 停車中に 4WD スイッチを押したときは、4WD 表示灯が消灯していても、走行中に点灯すれば正常です。

ABS

ABS*[1](EBD 機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

EBD は、Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 警告

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 次の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - 砂利道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

知識

- 低速（約 10km/h 以下）では、ABS は作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジンスイッチを“ON”にすると、メーター内の ABS 警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯を繰り返す場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中に ABS 警告灯が点灯した場合、通常のブレーキ性能は確保されていますが、ABS は作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ABS の作動中および作動後は、ブレーキペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABS が正常に作動しているときは、ブレーキペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むと ABS が作動しやすくなります。

*[1] ABS は、Anti-lock Brake System（アンチロックブレーキシステム）の略です。

知識

- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめると ABS が効果を発揮できません。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ *1 はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

*1 ブレーキペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

VSC & TRC

オプション／グレード別装備

VSC

VSC は、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VSC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。

（スリップインジケーター→ 157 ページ）

- VSC ＆ TRC OFF スイッチを 3 秒以上押して、メーター内の VSC OFF 表示灯と TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、VSC（TRC を含む）は作動しません。

（VSC ＆ TRC OFF スイッチ→ 158 ページ）

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 256 ページ）

⚠ 警告

- VSC を過信しないでください。VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- VSC は、車速が約 15km/h を超えると作動するようになります。
- VSC（TRC を含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ブレーキアシストについて

- VSC の“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキアシストが作動してブレーキが強くかかり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

TRC

▼ TRC のはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。
  （スリップインジケーター→ 157 ページ）
- VSC & TRC OFF スイッチを押して、メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、TRC は作動しません。
  （VSC & TRC OFF スイッチ→ 158 ページ）
- ぬかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRC が作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VSC & TRC OFF スイッチを操作することで、TRC を停止することができます。

▼ TRC のしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

▼ TRC とタイヤの関係

TRC は、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 256 ページ）

⚠ 警告

- TRC を過信しないでください。TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。
  （スリップインジケーター→ 157 ページ）
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- TRC は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

メーター表示

VSC & TRC 警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムに異常があると点灯します。
  - VSC
  - TRC
  - ヒルホールドシステム

（ヒルホールドシステム→ 160 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

点滅した場合

- VSC、または TRC が作動しています。

（スリップインジケーター→ 157 ページ）

スリップインジケーター

（点滅）

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次のシステムが作動した場合に点滅します。
  - VSC
  - TRC

⚠ 警告

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- スリップインジケーターが点滅した場合は、VSC、または TRC が作動していますので特に慎重に運転してください。

VSC OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRC を含む）が作動停止状態となり点灯します。

（VSC & TRC OFF スイッチ→ 158 ページ）

TRC OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。

（VSC & TRC OFF スイッチ→ 158 ページ）

VSC & TRC OFF スイッチ

VSC や TRC は新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。

このようなときは VSC & TRC OFF スイッチを押して VSC と TRC を“OFF”にします。

▼ TRC を “OFF” にするとき

- エンジンスイッチが “ON” のとき、VSC & TRC OFF スイッチを短押し（3 秒以内）します。
（メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します）

▼ VSC と TRC を “OFF” にするとき

- エンジンスイッチが “ON” で車両が停止しているとき、VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押し続けます。
（メーター内の TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します）

▼ 作動可能状態に戻すとき

- VSC & TRC OFF スイッチをもう1度押します。
（TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が消灯します）

⚠ 警告

- VSC や TRC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
  そのため、必要なとき以外は VSC や TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

知識

- VSC や TRC を作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的に VSC と TRC は作動可能状態に戻ります。
- TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

ヒルホールドシステム

オートマチック車

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステムは、急な上り坂で発進するときに起こる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。

ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約 2 秒間保持します。

作動条件

次の状態のとき、ヒルホールドシステムは作動します。

- 前進、または後退での上り坂発進時
- ブレーキペダルをしっかり踏んで停車しているとき
- 駐車ブレーキを解除しているとき

⚠ 警告

- ヒルホールドシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルホールドシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- 次の警告灯が点灯したときは、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。特に慎重に発進してください。
  - VSC & TRC 警告灯
    （VSC & TRC 装着車）
  - ABS 警告灯
    （VSC & TRC 装着車以外）
- 極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など、路面の状態や乗員の人数、荷物の重さなどによっては車両が後退することがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。
- ヒルホールドシステムは、2 秒以上車両の後退を軽減することができません。

知識

- ヒルホールドシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する

スマートアシストⅢ

オプション／グレード別装備

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム

（オートハイビーム→ 121 ページ）

オートマチック車

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

⚠ 警告

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけください。
- 次の状況ではシステムは正しく動作しません。スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

  - タイヤの空気圧が適正でないとき
  - スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
  - 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
  - サスペンションを改造したとき
  - ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
  - ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき
  - ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 車両を改造・架装したとき
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
  - サーキットなどでスポーツ走行するとき
  - 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
  - 冠水した道を走行するとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯が点灯しているとき

⚠ 注意

- 次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時的に機能停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は作動します。
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - お車を炎天下で放置した後など、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
  - エンジン始動直後
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
  - ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
  - 重い荷物を積んでいるとき
  - 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 機能によって認識性能の低下する条件や機能停止条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- ハンドル、シフトレバーの操作状況
- 車速などの車両の情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

▼ データの取扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうトヨタは、トヨタ自動車株式会社を意味しています。】

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で使用します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム

オートマチック車

- 誤発進抑制制御機能（前方）

⚠ 警告

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。
- 次のことをお守りください。お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ステレオカメラ前面のフロントガラスは常にきれいにしてください。
  - フロントガラス外側に汚れ、油膜、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - フロントガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
  - フロントガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
  - フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
    （ガラスの曇りを取るとき→ 216 ページ）

⚠ 警告

- フロントガラスのステレオカメラ前面の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーラバーまたはワイパーブレードを交換してください。ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
（ワイパーの交換→ 258 ページ）
- フロントガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。フロントガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- トヨタ純正品以外のフロントガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。
レンズに汚れ、傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- ルームミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部に物を置かないでください。フロントガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット、フロントグリル、フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- トヨタ純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

ソナー

ソナーは、次の機能で使用します。

● コーナーセンサー（リヤ）

（コーナーセンサー（リヤ）→ 195 ページ）

オートマチック車

● 誤発進抑制制御機能（後方）

⚠ 警告

● 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。

● 汚れを検知した場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が自動的に停止します。

● 次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
- ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
- ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
- ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。
- リヤバンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
- リヤバンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

衝突警報機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約 4 ～ 100km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4 ～ 100km/h で衝突のおそれがあるとき
  - 状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

衝突回避支援ブレーキ機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約 4 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突がさけられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

（次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。→172 ページ）
（次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。→169 ページ）

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作しても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルペダルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキ機能が作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車との速度差が約30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約 50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキ機能が作動したときに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 39 ページ）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件について

次の条件をすべて満たすと衝突警報機能および衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストが作動できる状態になります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- オートマチック車はシフトレバーが“P”、“R”レンジ以外、マニュアル車はシフトレバーが“R”以外
- 次に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差*1
衝突警報機能	対車両	約4～100km/h
	対歩行者	約4～50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約4～80km/h
	対歩行者	約4～50km/h
被害軽減ブレーキアシスト*2	対車両	約30～80km/h
	対歩行者	約30～50km/h

＊1 自車と前方車、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。
＊2 緊急ブレーキ作動中にブレーキ ペダルを踏み込んだ場合

⚠ 注意

- ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）

⚠ 注意

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - フロントガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
  - ガラスコーティング剤を使用したとき
  - フロントガラスにフィルムを貼ったとき
  - フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分にふき取れていないとき
  - フロントガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - トヨタ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
  - ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車、歩行者に接近するとき
  - トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
  - ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
  - 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
  - カーブ、うねった道路、坂道のとき
  - 路面に水たまりや水膜があるとき
  - 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
  - 前方車や歩行者との距離が極端に短いとき
  - 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
  - 急加速やハンドル操作をしながら、前方車、歩行者に接近したとき

⚠ 注意

- 前方車の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車や対向車による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 前方車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車が傾いているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪溜まりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車に接近して走行するときや、前方の壁や前方車の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車の方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車の二車線変更など、二つの物が交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき

⚠ 注意

- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- スマートアシスト故障警告灯が点灯しているとき（システム異常）
- スマートアシスト停止警告灯が点灯しているとき（機能停止）

緊急ブレーキについて

- 緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

知識

- 緊急ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

マニュアル車

- 緊急ブレーキ中にクラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止することがあります。エンジンが停止した場合はあわてずにクラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンを始動してください。

（エンジンのかけかた→ 142 ページ）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に、❶～❸の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

❶ 衝突警報

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性があると判断した場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

❷ 1次ブレーキ

前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高いと判断した場合に、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車、歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

❸ 2次ブレーキ

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断した場合に、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- 停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）
- ブレーキ制御が解除された後も停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。（オートマチック車はクリープ現象により車両がゆっくりと動き出します）
- マニュアル車はエンジンが停止した場合、あわてずにエンジンを始動してください。

システム作動中は、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起します。

- 緊急ブレーキ作動中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

	❶衝突警報	❷1次ブレーキ	❸2次ブレーキ	（停止保持）
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
被害軽減ブレーキアシスト	—	作動*1		—
ブザー音	ピピピピピピッ	ピピピピピピ・・・		ピピピッ・・・*2
スマートアシスト作動灯	点滅			点滅*2
マスターウォーニング	消灯	点灯		消灯

＊1 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合に作動
＊2 運転者操作で終了

知識

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

● 先行車発進お知らせ機能

オートマチック車

● 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

知識

● スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

誤発進抑制制御機能（前方・後方）

オートマチック車

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

● 前方は、ステレオカメラが約 4m 以内に障害物を認識している場合に作動します。

● 後方は、ソナーが約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。
- 後方で作動したとき、ブザーはリバース音よりも早い間隔で鳴ります。

（スマートアシストⅢの作動状態について
→ 192 ページ）

⚠ 警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。
  アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能（後方）とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていても誤発進抑制制御機能（後方）が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、誤発進抑制制御機能（後方）が作動する場合があります。

⚠ 警告

- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
（スマートアシスト OFF スイッチ → 193 ページ）
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRC を“OFF”または VSC ＆ TRC を“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ～約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- TRC OFF 表示灯、VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフトレバーが“D”、“2”、“L”レンジ
- 後方の場合は、シフトレバーが“R”レンジ

⚠ 注意

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）

⚠ 注意

- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
  - ステレオカメラの温度が極端に高いとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
  - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 前方車などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
  - 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
  - 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
  - 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
  - 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
  - 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
  - ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
  - 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
  - しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
  - 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
  - 障害物や前方車（トレーラーや対向車など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が充分でないこともあります）
  - 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
  - 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき

⚠ 注意

- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合

⚠ 注意

- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - 動いているもの
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況

⚠ 注意

- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- スマートアシスト故障警告灯が点灯しているとき（システム異常）
- スマートアシスト停止警告灯が点灯しているとき（機能停止）

（メーター表示→ 188 ページ）

誤発進抑制制御機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。

同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

知識

- スマートアシストOFFスイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。

⚠警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。

- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。
- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を作動させない場合があります。
  - 車線内を走行していないとき
  - カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
  - 車線幅が狭いとき
  - 方向指示器を使用しているとき
  - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
  - 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

車線逸脱警報機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- 車速が約 60km/h 以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

⚠ 注意

次の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
  - 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
  - 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
  - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
  - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
  - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
  - 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
  - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
  - 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
  - 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき

⚠ 注意

- 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- ガードレールの影などがあるとき
- 区画線が二重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

● ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- フロントウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

知識

● 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“LOCK”にしても維持されます。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約10m以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約3m以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

（スマートアシストⅢの作動状態について
→192ページ）

⚠ 警告

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

ブザーについて

- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

先行車発進お知らせ機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシストOFF表示灯が消灯
- スマートアシスト故障警告灯、スマートアシスト停止警告灯が消灯
- オートマチック車はシフトレバーが“D”、“2”、“L”レンジでブレーキペダルを踏んでいる、または“N”レンジ
- マニュアル車はシフトレバーが“R”以外でブレーキペダルを踏んでいる
- 停止してから数秒経過

⚠ 注意

● 次のような場合は、先行車が発進していなくても機能がはたらいてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能がはたらかない場合があります。
- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止した時に先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

● 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

● 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

オートマチック車

● 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

📖 知識

● スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

メーター表示

スマートアシスト作動灯

（点滅）

- エンジンスイッチを“ON”にするとスマートアシスト作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の機能が作動したときに点滅します。
  - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
  - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
  - 先行車発進お知らせ機能

オートマチック車

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

知識

- 緊急ブレーキが作動中または、誤発進抑制制御機能がエンジン出力を抑制しているときは、同時にマスターウォーニングも点灯します。
  （マスターウォーニング→106 ページ）

車線逸脱警報作動灯

（点滅）

- エンジンスイッチを“ON”にすると車線逸脱警報作動灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに点滅します。

スマートアシスト OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
  - スマートアシスト OFF スイッチで次の機能を“OFF”にしたとき
    - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
    - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
    - 先行車発進お知らせ機能

    オートマチック車
    - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
  - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

知識

- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングと車線逸脱警報 OFF 表示灯も点灯します。

（マスターウォーニング→ 106 ページ）

車線逸脱警報 OFF 表示灯

- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
  - スマートアシスト OFF スイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
  - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

知識

- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“LOCK”にしても維持されます。
- “ON”の状態を維持しているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

（スマートアシスト OFF スイッチ→ 193 ページ）

- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングとスマートアシスト OFF 表示灯も点灯します。

（マスターウォーニング→ 106 ページ）

スマートアシスト故障警告灯

スマアシ故障

● エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

● オートハイビームを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。
通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

● オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、次の警告灯と表示灯が同時に点灯します。
- マスターウォーニング
- スマートアシスト OFF 表示灯
- 車線逸脱警報機能 OFF 表示灯

（マスターウォーニング→ 106 ページ）

スマートアシスト停止警告灯

スマアシ
停止1 1E

● エンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストⅢの機能が一時的に停止したときに“スマアシ停止”と機能停止コードを点灯します。

● 点灯しているときは、スマートアシストⅢは作動しません。機能停止コードごとに適切な処置をしてください。

（機能停止コード→ 191 ページ）

知識

● 点灯していても、オートハイビームは作動することがあります。

機能停止コード

機能停止コード	原因	処置
11E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない	原因状態が解消されると、復帰します。
12E	ステレオカメラの作動条件を満たさなくなった（ステレオカメラ内が高温になったなど）	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“LOCK”にした後、再度エンジンスイッチを“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E*	ソナー部（車両後側）に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E*	フロントワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。

＊ オートマチック車のみ

⚠ 注意

● 処置をしても、機能停止コードが点灯したままのときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

● 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。

●「11E」は“R”レンジ以外、「15E」「16E」は“R”レンジのときに点灯します。

スマートアシストⅢの作動状態について

スマートアシストⅢの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

		インジケーター	液晶部	ブザー
スマートアシストOFFスイッチで、次の機能を停止したとき ・衝突警報機能（対車両・対歩行者） ・衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者） ・誤発進抑制制御機能（前方・後方）* ・先行車発進お知らせ機能		OFF が点灯	–	ピピッ
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき		OFF が点灯	–	ピピッ
オートハイビームを除くシステム異常時		⚠ OFF OFF が点灯	次のシステムに異常がある場合、“スマアシ故障”が点灯 ・ステレオカメラ ・ソナー	–
オートハイビーム異常時		Ⓐ が黄色に点灯	–	–
機能一時停止時		–	“スマアシ停止”と機能停止コードが点灯	–
衝突警報機能		–	OFF が点滅	ピピピピピピッ
衝突回避支援ブレーキ機能	1次ブレーキ	⚠ が点灯		ピピピピピ…
	2次ブレーキ			ピピピピピ…
	停止保持	–		ピピピッ…
誤発進抑制制御機能（前方）*	警報			ピピピピピピッ
	制御	⚠ が点灯		ピピピピピ…
誤発進抑制制御機能（後方）*	警報	–		ピピピピピッ
	制御	⚠ が点灯		ピピピピピ…
先行車発進お知らせ機能		–		ピピピッ
車線逸脱警報機能		が点滅	–	ピピピピッ ピピピピッ
オートハイビーム		Ⓐ が緑色に点灯	–	–

＊ オートマチック車のみ

スマートアシスト OFF スイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スマートアシスト OFF スイッチを操作することで、スマートアシストⅢの次の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能

オートマチック車

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

- スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、“OFF”になります。
  - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを約 2 秒以上押し続けます。
  - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

- スマートアシスト OFF スイッチを押すと、“OFF”になります。
  - メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON”（作動可能状態）に戻すときは、再度スイッチを押します。
  - メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“LOCK”にしても維持されます。

コーナーセンサー

オプション／グレード別装備

コーナーセンサー（リヤ）

コーナーセンサーは、徐行（車速約10km/h 以下）状態で後退しているときに、リヤバンパーの左右ソナーで障害物とのおおよその距離を認識して、ブザーで障害物の接近を運転者にお知らせする装置です。

（ソナー→ 166 ページ）

⚠ 警告

コーナーセンサーをお使いになる前に

- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - 車速が約 10km/h をこえないようにしてください。
  - ソナーの認識エリア、コーナーセンサーの作動速度には限界があります。
    お車を後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）やソナーの認識エリア外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
  - ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。

コーナーセンサーについて

- 次のような場合は、コーナーセンサーが作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  注意して運転してください。
  - 路面の状態（勾配、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
  - 後方障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき

⚠ 警告

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

・ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）

・地面から高い位置に存在する障害物のとき

・背の低い障害物のとき

・小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき

・動いているもの（急に後方に現れたり、車両後方を横切るものなど）

・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき

・障害物の面が車両の後面に対して斜めのとき

・地面に対して垂直でない壁のとき

・凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき

・針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき

・壁から柱や配管などが突き出しているとき

・認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき

・ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき

・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき

・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき

・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）

・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき

・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

●コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能（後方）※1 では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していても誤発進抑制制御機能（後方）※1 が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、誤発進抑制制御（後方）※1 が作動する場合があります。

⚠ 注意

●次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●障害物の横を至近距離で通過するとき

※1 オートマチック車のみ

⚠ 注意

- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

コーナーセンサーの異常について

- 次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - 障害物を認識していない状態で、ブザーが鳴ったとき
  - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
  - 事故などでソナー周辺が変形したとき

  オートマチック車
  - スマートアシストⅢに異常があるとき、またはスマートアシスト停止警告灯と機能停止コード“15E”が点灯しているとき

  （スマートアシスト停止警告灯→190 ページ）
（機能停止コード→191 ページ）
- ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴ったときは、コーナーセンサーが一時停止、または故障しています。ソナーに氷・雪・泥などが付着していないか確認して、取り除いてください。
  氷・雪・泥などが付着していない場合は、コーナーセンサーの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

- ソナーの認識エリアはリヤバンパーの左右ソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、ブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、ブザーが鳴る前に障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

作動条件

●次の条件をすべて満たしたときにコーナーセンサーは作動します。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- オートマチック車はシフトレバーが“R”レンジのとき
- マニュアル車はシフトレバーが“R”のとき
- 車速が約 10km/h 以下のとき

●作動条件をすべて満たした状態で、駐車ブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

（ブザー→ 198 ページ）

作動範囲

ブザー

作動条件をすべて満たした状態で、駐車ブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

●障害物との距離が短くなると、ブザーが下表のとおり変化します。

ブザー	ソナーと障害物との距離
ピッピッピッ…（断続音）	約60～45㎝
ピピピ…（断続音）	約45～30㎝
ピー（連続音）	約30㎝以内

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、最も近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

エマージェンシーストップシグナル

VSC & TRC 装着車

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅し、後続車に注意をうながすことで、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h 以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。

作動条件について

エマージェンシーストップシグナルは、自車が次の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h 以上で走行中
- ブレーキペダルを踏み、急減速した、または ABS が作動した

作動停止について

エマージェンシーストップシグナルは、次のいずれかのときに作動が停止します。

- 非常点滅灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキペダルから足を離した
- 急減速でなくなった
- ABS が作動停止した

⚠ 警告

- エマージェンシーストップシグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときは不必要な急ブレーキをさけ、安全運転を心がけてください。
- ABS 警告灯、または VSC & TRC 警告灯が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

アイドリングストップシステム

eco IDLE（エコアイドル）

eco IDLE は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 9km/h 以下）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリングストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリングストップ、エンジン再始動のしかた

1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯する

<スタンバイ状態>

（スタンバイ条件→ 203 ページ）

2 次の操作でアイドリングストップ

オートマチック車

● “D” レンジのままブレーキペダルを踏み減速すると、停車前（約 9km/h 以下）もしくは停車後に、アイドリングストップします。

マニュアル車

● 停車後にシフトレバーをニュートラルにし、クラッチペダルから足を離すとアイドリングストップします。

<アイドリングストップ状態>

eco IDLE 表示灯はアイドリングストップ中も点灯し続けます。

（停車前のアイドリングストップ条件（オートマチック車）→ 203 ページ）
（停車後のアイドリングストップ条件 → 204 ページ）

3 次の操作でエンジンが再始動

オートマチック車

●ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

マニュアル車

●クラッチペダルをいっぱいまで踏み込むと、エンジンが再始動します。

• 再始動したことを確認してから、シフトレバーを操作してください。

<エンジン再始動>

eco IDLE 表示灯は消灯します。

（エンジン再始動条件→ 204 ページ）

4 しばらく走行して、再びアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯する

eco IDLE（エコアイドル）の注意事項

⚠ 警告

● アイドリングストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。

•警告ブザーは約 5 秒間鳴ります。ただし運転席シートベルトと運転席ドアを元に戻すと警告ブザーが止まります。

（警告ブザー→ 206 ページ）

● ブレーキペダルとアクセルペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキペダル操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。

● 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止させてください。

⚠ 警告

オートマチック車

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

マニュアル車

- アイドリングストップ中にクラッチペダルを踏み込まずにシフトレバーをニュートラルから他のレンジに操作すると、警告ブザーが鳴ります。クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでエンジンを再始動するか、シフトレバーをニュートラルに戻してください。

⚠ 注意

eco IDLE を正常に作動させるために

- 次の場合、eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - 運転席シートベルトを着用していても、シートベルト締め忘れ警告灯が点滅するとき
  - 運転席シートベルトを外していても、シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しないとき
  - 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
  - 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

知識

アイドリングストップ中の操作について

- 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
  - クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアル車）
  - ブレーキペダルをすばやく踏み増しする（オートマチック車）
  - ハンドル操作をする（オートマチック車）
  - eco IDLE OFF スイッチを押す
    （eco IDLE OFF スイッチ→ 208 ページ）

オートマチック車のシフトレバー操作について

- アイドリングストップ中に、シフトレバーを“D”から“R”レンジ以外に操作してもアイドリングストップは継続します。ただし、シフトレバーを“N”レンジまたは“P”レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- アイドリングストップ中にシフトレバーを“D”から“P”レンジに操作したときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。

アイドリングストップ中のエアコンの作動について

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、次の操作でエンジンを再始動させてください。
  - クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアル車）
  - ブレーキペダルをすばやく踏み増しする（オートマチック車）
  - ハンドル操作をする（オートマチック車）
  - eco IDLE OFF スイッチを押す

システムの作動条件について

スタンバイ条件

次の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯し、アイドリングストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき（eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- エンジンが十分に温まっているとき
- 押しがけによる始動をしていないとき（マニュアル車）
- トランスミッションオイルが十分に温まっているとき（オートマチック車）
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
  （走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリングストップしません）
- シフトレバーが“D”レンジのとき（オートマチック車）
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
  （走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります）
- システム（eco IDLE、エンジン電子制御、オートマチックトランスミッション、ABS、VSC、電動パワーステアリング、車両通信）が正常なとき

知識

- 次の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
  - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
  - バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子を外したあと

停車前のアイドリングストップ条件

オートマチック車

スタンバイ条件と次の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車前にアイドリングストップします。

- 車速が約 9km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- 車幅灯が消灯しているとき
- フロントワイパー・ウォッシャースイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS が作動していないとき
- VSC が作動していないとき（VSC & TRC 装着車）
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）
- ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

知識

- 次の場合、停車前アイドリングストップしない場合があります。
  - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
  - 勾配のある坂道を走行しているとき
  - ゆるやかに減速しているとき

停車後のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と次の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車後にアイドリングストップします。

- 車両が停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき（オートマチック車）
- ハンドル操作をしていないとき（オートマチック車）
- クラッチペダルから足を離しているとき（マニュアル車）
- シフトレバーがニュートラルのとき（マニュアル車）
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ABS が作動していないとき
- VSC が作動していないとき（VSC & TRC 装着車）
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）

知識

- 次の場合、アイドリングストップしない場合があります。
  - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
  - 急勾配の坂道で停車したとき

エンジン再始動条件

アイドリングストップ中に、次のいずれかの操作を行うとエンジンが再始動します。

- ブレーキペダルから足を離す（オートマチック車）
- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアル車）
- ブレーキペダルをすばやく踏み増しする（オートマチック車）
- アクセルペダルを踏む（オートマチック車）
- ハンドル操作をする（オートマチック車）
- シフトレバーを“R”レンジに操作する（オートマチック車）
- シフトレバーを“N”レンジまたは“P”レンジに操作したあと、他のレンジに操作する（オートマチック車）
- eco IDLE OFF スイッチを押して、システム作動を停止する
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

知識

エンジンの再始動について

● 次の場合でも、アイドリングストップ中にエンジンが再始動します。オートマチック車はクリープ現象 *1 が発生しますので、ブレーキペダルを踏み続けてください。

- アイドリングストップ中に、アイドリングストップが作動可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE 表示灯は点滅後消灯）
  - ・ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
  - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
  - ・停車前アイドリングストップ中に下り坂などで加速したとき（オートマチック車）
  - ・バッテリーの放電量が多いとき
  - ・警告灯（エンジン、オートマチックトランスミッション、ABS、VSC & TRC、電動パワーステアリング）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
  - ・アイドリングストップしてから約 3 分経過したとき
- アイドリングストップ中に、eco IDLE システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE OFF 表示灯が点滅）

マニュアル車

● アイドリングストップ中にシフトレバーをニュートラルから他のレンジに操作した場合、クラッチペダルを踏み込む以外の操作でエンジンを再始動することができません（警告ブザーが鳴り、eco IDLE 表示灯が高速点滅します）。シフトレバーをニュートラルに戻すと、他のエンジン再始動条件で再始動することができます。

クラッチペダルを踏み込んでエンジンを再始動するときは

マニュアル車

● エンジンが再始動したことを確認できるまでクラッチペダルを踏み続けてください。再始動中にシフトレバーを操作してクラッチペダルから足を離すと、アイドリングストップ状態に戻ります（警告ブザーが鳴り、eco IDLE 表示灯が高速点滅します）。この場合は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでエンジンを再始動してください。

*1 エンジンがかかっているとき、シフトレバーが“P”、“N”レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

知識

アイドリングストップ時間が短くなる場合

- 次の場合、アイドリングストップ時間が短くなる場合があります。
  - 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリングストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に次の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
  - オーディオ
  - ナビゲーションシステム
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

警告ブザー

アイドリングストップ中に、次の操作をすると、警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

運転席シートベルトを外したとき

エンジンが再始動し、警告ブザーが約 5 秒間鳴ります。

▼ 対処方法

- 運転席シートベルトを確実に着用してください。
  （警告ブザーが止まります）

運転席ドアを開けたとき

エンジンが再始動し、警告ブザーが約 5 秒間鳴ります。

▼ 対処方法

- 運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。
  （警告ブザーが止まります）

クラッチペダルを踏み込まずにシフトレバーをニュートラル以外の位置にしたとき

マニュアル車

警告ブザーが鳴り続けます。

▼ 対処方法

- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでエンジンを再始動してください。
  （警告ブザーが止まります）
- シフトレバーをニュートラルに戻してください。（警告ブザーが止まります）

eco IDLE 表示灯

eco IDLE に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。

点灯

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき（数秒後消灯）
- アイドリングストップが作動可能な条件を満たしたとき
  <スタンバイ条件成立>
- アイドリングストップ中

消灯

- アイドリングストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリングストップが作動可能な条件を満たしていないとき
  <スタンバイ条件不成立>

低速点滅後、消灯

アイドリングストップ中に、アイドリングストップが作動可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

高速点滅

アイドリングストップ中に次の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- クラッチペダルを踏み込まずにシフトレバーをニュートラル以外にしたとき（マニュアル車）

（警告ブザー→ 206 ページ）

知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

eco IDLE OFF 表示灯

点灯

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE 作動を停止すると点灯します。

（eco IDLE OFF スイッチ→ 208 ページ）

点滅

- 次の状態になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。
  - eco IDLE システムに異常があるとき
  - エンジン部品（スターター）が交換時期のとき

点滅後、消灯

- バッテリーが交換時期になると、エンジンスイッチを“ON”にすると点滅し、数秒後に消灯します。

⚠ 注意

点滅した場合

- トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

アイドリングストップ時間表示

アイドリングストップ時間を、メーターのディスプレイ部に表示できます。

（マルチインフォメーションディスプレイ→ 113 ページ）

eco IDLE OFF スイッチ

eco IDLE の作動を停止したいときにスイッチを押します。

▼ 操作方法

- スイッチを押すと、eco IDLE の作動停止状態になります。
  - メーター内の eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと、eco IDLE 作動停止状態が解除されます。
  - eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。

（eco IDLE 表示灯→ 207 ページ）
（eco IDLE OFF 表示灯→ 207 ページ）

知識

- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE 作動停止状態になります。（eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- eco IDLE はエンジンスイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

ヒルスタートシステム

オートマチック車

アイドリングストップからブレーキペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

- 坂道発進時の後退を軽減します。

▼ 作動の流れ

1 ブレーキペダルを踏む力をゆるめる

2 ブレーキ力保持

3 エンジン再始動

4 発進

⚠ 警告

- ヒルスタートシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。
- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリングストップしたあと、車両が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。

知識

- ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する
- ヒルスタートシステムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。
- シフトレバーが“P”レンジのときは、ヒルスタートシステムは作動しません。

eco IDLE 専用バッテリー

eco IDLE 装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。

バッテリーを交換するときは、この車用のeco IDLE 専用バッテリーと交換してください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE が正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

知識

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

エコ発電制御

エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

装備品の使いかた

空調

マニュアルエアコン …… 214

リヤウインド
デフォッガースイッチ … 220

リヤヒーター …… 221

オーディオ

アンテナ …… 222

オーディオの取り扱い …… 222

AM/FM ラジオ …… 224

室内装備品

室内照明 …… 230

アクセサリーソケット …… 232

100V 電源 …… 233

サンバイザー …… 234

アシストグリップ／
乗降グリップ …… 235

収納装備 …… 236

ドリンクホルダー …… 239

マルチユーティリティ
フック …… 239

空調

マニュアルエアコン

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル

マニュアルエアコンの使いかた

通常の暖房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドする
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- ファン調整スイッチ（❹）を調整する

▼ 急速に暖房したいときは

温度調整レバー（❷）を一番右（高温側）にスライドして、内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー（❸）を にして長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
- 暖かくなってきたら温度調整レバー（❷）を左（低温側）にスライドして、お好みの温度に調整してください。

通常の冷房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を左（低温側）にスライドする
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- ファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

知識

乗車直後に車内の温度が高いときは

- 窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

▼ 急速に冷房したいときは

温度調整レバー（❷）を一番左（最低温）に操作して、内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー（❸）を にして長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。
- 冷えてきたら温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドして、お好みの温度に調整してください。

除湿暖房するとき（曇り止め）

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 状況に応じて温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

換気するとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 状況に応じて温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“OFF”にする

ガラスの曇りを取るとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にする
- 状況に応じて温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 状況に応じてファン調整スイッチ（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

ガラスの曇りを取る操作と併せて、次の操作を行います。

- ファン調整スイッチ（❹）で風量を増す
- 温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドする

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整レバー（❷）を一番左（最低温）に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を にすると、曇り取りと同時に足元にも送風します。

外気が汚れているときは

- 一時的に内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

マニュアルエアコンの取扱いについて

⚠ 警告

- eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。
（ガラスの曇りを取るとき→ 216 ページ）

知識

eco IDLE によるアイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房・除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、次の操作でエンジンを再始動させてください。
  - クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む（マニュアル車）
  - ブレーキペダルをすばやく踏み増しする（オートマチック車）
  - eco IDLE OFF スイッチを押す

（eco IDLE（エコアイドル）→ 200 ページ）

風向きの調整

吹き出し口

左右および中央の吹き出し口からの風向きを調整することができます。

- ノブを動かして調整します。

吹き出し口の開閉

▼ 左右吹き出し口

ノブを矢印の方向いっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

〈助手席側〉　〈運転席側〉

知識

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各ダイヤル／レバースイッチの使いかた

❶吹き出し口切り替えダイヤル

ダイヤルを左右に回して、吹き出し口を切り替えます。

● 風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル位置					
吹き出し口	Ⓑ Ⓒ	Ⓑ Ⓒ Ⓓ	Ⓓ (Ⓐ) (Ⓒ)	Ⓐ Ⓓ (Ⓒ)	Ⓐ (Ⓒ)

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

● 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を ⁂ または ⁂ に切り替えないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

- このマークは、吹き出し口切り替えダイヤル（❶）を または に合わせるときに内外気切り替えレバー（❸）を に合わせて使用することをおすすめするためのものです。 に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

❷温度調整レバー

レバーを左右にスライドして、温度を調整します。

❸内外気切り替えレバー

レバーをスライドして内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（ ）

- 外気をしゃ断している状態です。
  トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（ ）

- 外気を導入している状態です。
  通常はこの位置でお使いください。

⚠ 注意

- 吹き出し口切り替えダイヤル（❶）が 、 または のとき“内気循環”にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

知識

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は“外気導入”を使用してください。
- トンネルや渋滞時などは、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

❹ファン調整スイッチ

吹き出し口からの風量を調整します。

● 4 段階の切り替えができます。

❺エアコンスイッチ

● ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。

- 作動表示灯が点灯します。

● もう一度押すとエアコンが停止します。

- 作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

● 停車時（eco IDLE によるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。

知識

● 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

リヤウインド デフォッガースイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、使用できます。

▼ 操作方法

● スイッチを押すと、リヤウインドガラスが温められ、曇りを取ることができます。

- 作動表示灯が点灯します。

● スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。

- 作動表示灯が消灯します。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

リヤウインドガラス内面を清掃するときは

● リヤウインドガラス内面の電熱線を傷付けないでください。

リヤヒーター

オプション／グレード別装備

ファンスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、ファンスイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ファンが作動します。

レバーの位置

後席足元のコントロールレバーで吹き出し温度を調整します。

オーディオ

アンテナ

▼ 使用方法

- ラジオを受信するときは、アンテナの先を持っていっぱいに引き出す
- 収納するときは、アンテナの根元を持って少しずつ収納する

⚠ 警告

- 走行中に引き出し、収納などの操作をしないでください。運転のさまたげになるほか車外の物に当たったり、急ブレーキをかけたときけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 次のようなときは、アンテナを収納してください。破損したり、変形したりする場合があります。
  - 自動洗車機使用時
  - ボデーカバーをかけるとき
  - 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるとき
  - 降雪時に長時間駐車するとき

オーディオの取り扱い

オプション／グレード別装備

⚠ 警告

- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量を出すと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながります。

⚠ 注意

- エンジン停止時は、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- 水分や高温・多湿・ほこり・ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分注意してください。
- オーディオ本体の手入れは、乾いた柔らかい布でふいてください。損傷の原因となるおそれがある固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には、柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
- 車内の温度に気を付けてください。極寒や酷暑のとき、特に夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。

知識

- オーディオを聞いているとき、室内またはお車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。
- ラジオの受信は、電波の強さが変化したり、電車・信号機などの障害物の影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

AM/FM ラジオ

オプション／グレード別装備

基本操作

❶ 電源スイッチ

❷ 音量調整ツマミ

❸ 表示ボタン

電源を入れる

❶電源スイッチ

1 エンジンスイッチを “ON” または “ACC” にする

- 前回、エンジンスイッチを “LOCK” にしたときにラジオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。

2 電源スイッチを押す

- ラジオの電源が入ります。
- もう一度スイッチを押すと、電源が切れます。

音量を調整する

❷音量調整ツマミ

音量調整ツマミを右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

ラジオの周波数を表示する

❸表示ボタン

- 表示ボタンを押すと、ディスプレイ部にラジオの周波数が表示されます。
- 約 6 秒後、時計表示に戻ります。

時計調整

オーディオの電源の“ON”“OFF”に関わらず、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にすると、ディスプレイ部に時計が表示されます。

❶ 時計ボタン
❷ 時ボタン
❸ 分ボタン
❹ セットボタン

知識

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。
- 時刻の表示は、12 時間表示です。

時計を調整するには

時計を表示しているときに時計ボタン（❶）を押しながら、時ボタン（❷）、または分ボタン（❸）を押して調整します。

- 時計ボタン（❶）から指を離すと調整が完了します。

“時”を調整する

時計ボタン（❶）を押しながら、時ボタン（❷）を押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

■“分”を調整する

時計ボタン（❶）を押しながら、分ボタン（❸）を押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

■時報“:00”に合わせる

時計ボタン（❶）を押しながら、セットボタン（❹）を押します。

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00

（例）1:30 ～ 1:59 → 2:00

ラジオの受信

AM・FM 放送、交通情報の切り替え

❶ AM / FM ボタン

▼ AM・FM 放送を切り替えるには

ラジオを聞いているときに、AM / FM ボタンを押すと、AM・FM が切り替わります。

- ディスプレイ部に、切り替わった AM・FM 放送の周波数が表示されます。

▼ 交通情報を切り替えるには

AM / FM ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

もう一度ボタンを押すと、解除されます。

知識

- 交通情報が行われていない地域では受信できません。
- AM/FM ボタンで受信できる周波数は 1620kHz のみです。ほかの周波数の交通情報放送局をこのボタンで受信することはできません。

周波数を変える

❷チューニングボタン

▼ 手動で選択するには

チューニングボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには ∧ 側のボタン、低い方に選択するには ∨ 側のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼ 自動で選択するには

チューニングボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには ∧ 側のボタン、低い方に選択するには ∨ 側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

知識

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。

選択した周波数を記憶させる

❸ CH 選局 / メモリーボタン

1 CH 選局 / メモリーボタンを押して記憶させるチャンネルを選択する

- ボタンを押すたびに AM 放送受信中は「A01 → A02 → A03 → A04 → A05 → A06 → A01」、FM 放送受信中は「F01 → F02 → F03 → F04 → F05 → F06 → F01」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

2 チューニングボタン（❷）で記憶させる周波数を選択する

3 CH 選局 / メモリーボタンを「ピッ」と音がするまで押し続け、周波数を記憶させる

知識

- AM・FM 各 6 局まで周波数を記憶させることができます。
- 自宅付近などで日頃よくお聞きになる放送局の周波数を記憶させておくと便利です。

記憶させた放送局を呼び出すには

❸ CH 選局 / メモリーボタン

CH 選局 / メモリーボタンを押すたびに、記憶した放送局が選択されます。

- ボタンを押すたびに AM 放送受信中は「A01 → A02 → A03 → A04 → A05 → A06 → A01」、FM 放送受信中は「F01 → F02 → F03 → F04 → F05 → F06 → F01」の順にチャンネルが変わり、記憶させた周波数がディスプレイ部に数秒表示されたあと、時計が表示されます。

知識

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。この場合は、再度記憶させてください。

室内装備品

室内照明

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

ルームランプ

▼ スイッチが“ON”のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

（ドア連動機能→ 231 ページ）

フロント

センター

オプション／グレード別装備

後席天井中央部にあります。

荷室ランプ

オプション／グレード別装備

後席左側上部にあります。

荷室 LED ランプ

オプション／グレード別装備

後席天井中央部にあります。

ドア連動機能

ドア操作、エンジンスイッチ操作に連動して、点灯・消灯する機能です。

● スイッチが“DOOR”のときに連動します。

▼ エンジンスイッチの切り替え

エンジンスイッチ	室内照明
LOCKまたはACC → ON	消灯
ON → ACCまたはLOCK	約15秒間点灯後に消灯

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”のとき、次の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席ドアロック	室内照明
解錠 → 施錠	消灯（点灯中は減光後に）
施錠 → 解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
全閉 → いずれか開	点灯
いずれか開 → 全閉	約15秒後に消灯

知識

● 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

▼ ドア連動機能による点灯時

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”で、ドアをあけたまま約 10 分経過すると、自動的に消灯します。

● 次のいずれかの操作をすると、再度点灯します。

- すべてのドアを閉めて、再度開ける
- エンジンスイッチを“ON”にする

▼ 室内照明のスイッチが“ON”のとき

エンジンスイッチが“LOCK”で、室内照明のスイッチが“ON”のまま約 12 分経過すると、自動的に消灯します。

● 次のいずれかの操作をすると、再度点灯します。

- ドアの開閉
- エンジンスイッチを“ACC”、または“ON”にする

キーレスエントリー装着車

- キーレスエントリーによる施錠・解錠

アクセサリーソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

- カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

⚠ 注意

- 電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止した状態で使用しないでください。
- エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

知識

- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
（eco IDLE（エコアイドル）→ 200 ページ）
- 故障を防ぐため、電化製品はトヨタ純正用品をおすすめします。

100V 電源

オプション／グレード別装備

AC100V(最大消費電力 60W 以下) の電化製品の電源用コンセントとして利用することができます。

● カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

⚠ 注意

● AC100V で最大消費電力が 60W を超える電気製品は使用しないでください。最大消費電力を超える電化製品を使用すると、電源回路の保護機能が働き電源コンセントが一時的に使用できなくなります。

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

使用する電化製品について

● 次のような場合は、AC100V の電化製品は最大消費電力が 60W 以下でも正常に作動しない場合があります。
- 起動時のピーク電力が高い電化製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え (50/60Hz) のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする電化製品

サンバイザー

直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用方法

矢印の方向に動かします。

⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

オーバーヘッドシェルフ装着車

- サンバイザーを側面にするときは、バイザーの上側がオーバーヘッドシェルフをこすらないよう下に引きながら動かしてください。

チケットホルダー

オプション／グレード別装備

チケット類を収納することができます。

カードホルダー

オプション／グレード別装備

カード類を収納することができます。

⚠ 警告

- サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

バニティーミラー

オプション／グレード別装備

▼ 使用方法

カバーを矢印の方向に開けます。

⚠ 警告

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アシストグリップ／乗降グリップ

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物をアシストグリップ／乗降用グリップにかけないでください。アシストグリップ／乗降用グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

アシストグリップ

走行中、車体がゆれたときなどにご使用ください。

乗降グリップ

車両に乗り降りするときなどにご使用ください。

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものが挟まると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。

フタ付き収納装備について

- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。

オープントレイ

⚠ 警告

オーバーヘッドシェルフについて

- オーバーヘッドシェルフにぶら下がったり、体重をかけたりしないでください。収納物が落ちてけがをするおそれがあります。
- 加速したときなどの走行時に、収納物がすべり落ちてけがをしないよう、次のことを守ってください。
  - オーバーヘッドシェルフ内に固い物や鋭利な物を収納しないでください。
  - オーバーヘッドシェルフ内に本や雑誌などを重ねて収納しないでください。
  - 缶ジュースなどの転がりやすい物を収納しないでください。

⚠ 注意

オーバーヘッドシェルフについて

- オーバーヘッドシェルフに収納することができる重さは、各ポケット部最大 0.5kg です。

グローブボックス

▼ 使用方法

●レバーを引いて開けます。

●閉めるときはそのまま閉めます。

助手席シートバックポケット

オプション／グレード別装備

⚠ 注意

助手席シートバックポケットについて

●シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

ドアポケット（運転席／助手席）

オプション／グレード別装備

デッキサイドポケット（左右）

オプション／グレード別装備

カードホルダー／ペンホルダー

ペンやカード類を収納することができます。

ドリンクホルダー

⚠ 警告

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ペットボトルは、形状によってはしっかり固定されない場合があります。
  しっかり固定されないままで走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

知識

- ペットボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

カップホルダー

ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。
インストルメントパネルの運転席側、助手席側にあります。

マルチユーティリティフック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
インストルメントパネル（中央）にあります。

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物をマルチユーティリティフックにかけないでください。（最大荷重量約 1kg）
  フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

MEMO

お車の手入れ

日常の手入れ
ボデー、塗装面の
手入れ …… 242
室内の手入れ …… 244
簡単な点検・部品の交換
各部の点検 …… 246
消耗品の補給、交換 …… 252
タイヤの点検 …… 256
ワイパーの交換 …… 258
エアコンガス、
フィルターの交換 …… 262
ヒューズの交換 …… 263
電球（バルブ）交換 …… 266
キーの電池交換 …… 278

日常の手入れ

ボデー、塗装面の手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデーカバーを付けるように心がけましょう。

車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

次の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コールタール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

知識

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しく手入れを行ってください。

洗車

⚠ 警告

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。

⚠ 注意

- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

洗車のしかた

1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う

- 汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に流します。

2 水が乾かないうちにふき取る

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアミラー、アンテナは必ず格納し、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。洗車機によっては、ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアガラスやドア周りなどの開閉部分は高圧洗車はさけてください。
  - ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠ 注意

- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。

知識

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

塗装部品の手入れ

塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

知識

- 塗装部品の傷の補修をする場合は、トヨタ販売店にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

室内の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材などの汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

室内側のウインドガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

警告

- シートベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤をとかしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、十分注意してください。シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

車内に水などをかけないでください

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  また、SRS エアバッグコンピューターの周囲に水がかかると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因となります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。
- 液体芳香剤は、こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因となります。
- リヤウインドガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

フロントウインドガラスの内側を清掃するとき（スマートアシストⅢ装着車）

- ステレオカメラにさわらないように注意してください。誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

スーパー UV & IR カットガラス（フロントドア）を清掃するときは

オプション／グレード別装備

- 汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤や鋭利なもの、硬いもので清掃しないでください。
  室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

簡単な点検・部品の交換

お車を安全、快適にご使用いただくには、日頃の手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

各部の点検

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

エンジンルーム

（エンジンルームの開閉→ 248 ページ）

ボンネット

（ボンネットの開閉→ 250 ページ）

インストルメントパネル右側

インストルメントパネル右側のカバーを外すと、ブレーキフルードリザーバータンクがあります。

▼ 取り外しかた

1 カバーを取り外す

- 手を添えながら、矢印の方向に引きます。

2 エアコンダクトを矢印の方向に引いて取り外す

▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

⚠ 注意

- ブレーキオイルがこぼれたときは、すぐに水で濡れたタオルなどでふき取ってください。ブレーキオイルがこぼれた箇所が変色、変形するおそれがあります。

エンジンルームの開閉

エンジンルームは、シートの下にあります。

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、エンジンルームを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - エンジンルームを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - エンジンルームを閉めたあとは、シート下のキャッチが確実にロックしたことを確かめてください。ロックが確実にされていないと、急ブレーキ時などにシートが動き、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまにエンジンルームの開閉はさせないでください。開閉中うっかり手を離すと手などを挟むなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

点検作業をしたあとは

- エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

エンジンルームの開けかた / 閉めかた

⚠ 警告

- シートを動かすときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- シートをおろすときは、シートベルトのバックルを挟み込まないように注意してください。バックルが破損するおそれがあります。

▼ 開けかた

1 フロントシートのスライドレバーを引き、一番後ろまでスライドさせる

2 リクライニングレバーを矢印の方向に動かし（❶）、背もたれを前に倒す（❷）

3 シート前部のキャッチにあるレバーを動かし（❶）、キャッチを引き上げる（❷）

4 シートを持ち上げリヤシート側に倒す

⚠ 注意

- シートは、持ち上げた状態では不安定です。作業をするときは、シートが倒れてこないように十分注意しながら行ってください。
- シートを持ち上げた状態でドアを閉めないでください。ドアの内側に当たるおそれがあります。

▼ 閉めかた

⚠ 警告

- シートを動かすときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1 フロントシートを車両前側に起こす

2 シート前部のキャッチを確実にロックする

⚠ 注意

- キャッチは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。

3 背もたれを起こして固定する

4 シートのスライド位置を調整する

5 シートが確実に固定されたことを確認する

ボンネットの開閉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、ボンネット内部が大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、ボンネットを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。
  特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと手などを挟むなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

点検作業をしたあとは

- ボンネット内部に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内部に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

ボンネットの開けかた

⚠ 注意

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

1 インストルメントパネル右下のオープナーを手前に引く

- オープナーを引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。

2 ボンネット前部のキャッチフックレバーを矢印の方向に引き上げる

3 ボンネットを持ち上げる

4 ステーを外し、ボンネットの固定穴に差し込む

5 ボンネットが確実に固定されたことを確認する

▼ ボンネットの閉めかた

1 ボンネットを片手で支える

2 ステーを外して元の位置へ戻す

3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

⚠ 注意

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

消耗品の補給、交換

消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

⚠ 警告

- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、次のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
  オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ボンネット内部を点検するときは、フロントガラス下部周辺に物を置かないでください。ボンネット内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を定期的に点検してください。

オイルレベルゲージ

⚠ 注意

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

知識

- 外気温が低いときに、オイルフィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

ラジエーターリザーバータンクのキャップに付いているレベルゲージで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 警告

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ラジエーターリザーバータンクに冷却水がないときは、ラジエーターリザーバータンクおよびラジエーターに冷却水を補給したあと、エア抜きが必要になりますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

- 点検後は、ラジエーターリザーバータンクのキャップのパイプが車両後方に向くように、キャップを確実に取り付けてください。

▼ 冷却水の交換について

⚠ 注意

- 冷却水の交換要領は、ボンネット奥に貼り付けてあるエンジン冷却水交換要領ラベルに記載しています。
- 冷却水の交換は、トヨタ販売店に依頼してください。

ウインドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、トヨタ純正ウインドウォッシャー液を補給します。

⚠ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

知識

- ウインドウォッシャー液はトヨタ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。
- ウインドウォッシャータンクはフロント、リヤ（オプション）兼用です。

▼ 点検のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、セットしてあるレベルゲージを引き抜きます。

“NORMAL”～“LOW”の点検穴すべてに膜が張っているかを確認します。

知識

点検穴すべてに膜が張っていない場合

● ウォッシャータンクの“FULL”までウォッシャー液を補給してください。

▼ 補給のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に 1 回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。
また、スペアタイヤの空気圧も点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

（サービスデータ→ 316 ページ）

（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）

⚠ 警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象 *1 によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km 以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが温まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20 ～ 30kPa（0.2 ～ 0.3 {kgf/cm^2}）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠ 警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、トヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

*1 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

⚠ 警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象 *1 により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは5,000km走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

（タイヤの交換→ 303 ページ）

⚠ 注意

- 応急用スペアタイヤはローテーション用タイヤとして使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）

*1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

ワイパーの交換

⚠ 警告

- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

⚠ 注意

- ワイパーブレード、ラバーはトヨタ純正をおすすめします。トヨタ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパーブレードラバーを使用し続けると、ウインドガラスを傷付けるおそれがあります。ふきむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロントワイパーアームを起こすときは、必ず運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパーアームから戻してください。
- 起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパーアームが変形したり、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

フロントワイパー

ワイパーブレード

▼ 取り外しかた

1 アームを起こす

2 ブレードをツメが見える角度まで傾ける

3 ツメを押しながら、ブレードをスライドさせてアームから外す

▼ 取り付けかた

ブレードをアームに取り付ける

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

1 ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引く

2 ラバーをそのままブレードから引き抜く

▼ 取り付けかた

1 プレートをラバーから取り外す

2 ラバーを交換する

3 プレートをラバーに差し込む

- プレートの反りの向きに注意してください。

4 ラバーはストッパーがない側からブレードに挿入する

5 ラバーのストッパーをブレードのツメで確実にとめる

⚠ 注意

- ストッパーが確実にとまっていないと、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

知識

アームに取り付けるときは

- ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。

リヤワイパー

ワイパーブレード

▼ 取り外しかた

1 アームを起こす

2 ブレードを図の角度まで回す

3 ブレードを図の方向に引いて、アームから外す

▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

● ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

1 ラバーの先端部を引き、ブレードのストッパーから外す

2 ラバーをブレードから引き抜く

▼ 取り付けかた

1 プレートをラバーから取り外す

2 ラバーを交換する

3 プレートをラバーに差し込む

● プレートの反りの向きに注意してください。

4 ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込む

5 ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す

6 ブレードの 1 番目のツメにラバーを通す

7 ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して確実に固定する

⚠ 注意

- ブレードのツメをラバーに確実に挿入してください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

エアコンガス、フィルターの交換

エアコンガス

エアコンガスは新冷媒 HFC134a（R134a）を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

知識

- エアコンガスの補充、エアコンの修理をする場合はトヨタ販売店にご相談ください。

クリーンエアフィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーンエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

スーパークリーンエアフィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は 20,000km です。
（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は 10,000km です）

クリーンエアフィルター

- 交換の目安は 20,000km です。
（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km です）

⚠ 注意

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ヒューズの交換

次のような症状が見られるとヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。

- ランプが点灯しない
- 電気系統の装置がはたらかない

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置がはたらかないとき

ヒューズの位置

インストルメントパネル中央

▼ カバーの取り外しかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 カバー下部の穴に指をかけ、上部を手で押さえながら真下方向に引く

エンジンルーム内

ターボ車以外（助手席下）

ターボ車（運転席下）

▼ カバーの取り外しかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 カバー横のツメを押しながらカバーを取り外す

ヒューズの点検と交換

各ヒューズの配置と容量

▼ インストルメントパネル中央

ヒューズボックスカバーの裏側に表示しています。

▼ エンジンルーム内

ヒューズボックスのカバーに表示しています。

知識

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。
  また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検・交換方法

▼ ヒューズの取り外しかた

1 ヒューズプラーをインストルメントパネルのヒューズボックスから取り出す

2 ヒューズをヒューズプラーで挟んで外す

3 取り外したヒューズを点検する

（正常）

（切れているとき）

▼ ヒューズが切れているときは

- 規定容量のヒューズと交換してください。

▼ ヒューズが切れていないときは

- ほかに原因が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

バルブの位置

グレードの違い、メーカーオプションも記載しています。

電球（バルブ）			W（ワット）数
❶	ハイマウントストップランプ		16
❷	ルームランプ（フロント）		8
❸	ルームランプ（センター）		8
❹	荷室LEDランプ		LED
❺	荷室ランプ		8
❻	番号灯		5
❼	後退灯		16
❽	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯		21
❾	制動灯 兼 尾灯		LED
❿	前照灯(Hi/Low)	ハロゲンヘッドランプ装着車	60/55
⓫	フォグランプ		LED
⓬	前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯		21
⓭	車幅灯	ハロゲンヘッドランプ装着車	5
		LEDヘッドランプ装着車	LED
⓮	前照灯(Low)	LEDヘッドランプ装着車	LED
⓯	前照灯(Hi)	LEDヘッドランプ装着車	LED

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプは、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

電球の交換

⚠ 警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
  また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。
  トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

レンズ内の水滴と曇りについて

- ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

交換作業をするときは

⚠ 注意

- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。
  レンズを破損するおそれがあります。

バンパーを固定しているクリップは、次の手順で脱着します。

【クリップのイラストは代表例です。取り付けられている箇所により、形状が異なります】

1 取り外すときは、⊖ドライバーなどで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る

2 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む

ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け

次の電球を交換するときは、ヘッドランプ本体を取り外します。

- 前照灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）
- 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）
- 前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯

▼ 取り外し手順

1 ボンネットを開ける

（ボンネットの開閉→ 250 ページ）

2 フロントバンパーのクリップ（2 個）を取り外す

3 フェンダーライナーのボルト（1 本）を取り外し、フロントバンパーを矢印の方向に動かしてフェンダーとのかん合を取り外す

4 ヘッドランプのクリップ（1 個）とボルト（2 本）を取り外す

知識

- ヘッドランプを固定しているボルトには、緩み止め剤が使用されています。
  ヘッドランプを脱着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

5 車両前側にランプ本体を引いてツメを取り外す

6 フロントバンパーを矢印の方向にめくる

7 車両からランプ本体を取り外す

⚠ 注意

ランプ本体を取り外すときは

- バンパーやフェンダーに引っかからないように注意してください。
  ランプ本体、および車両に傷が付くおそれがあります。

8 交換する電球を取り外し、新しい電球と交換する

（前照灯→ 272 ページ）
（車幅灯→ 273 ページ）
（前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯
→ 273 ページ）

知識

- ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジに触れないでください。

- 電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

ランプ本体を取り付けるときは

- ランプ本体のツメを車両側へ確実に差し込んでください。
  ツメが差し込まれていない状態で取り付けると、ランプ本体、および車体が損傷するおそれがあります。

前照灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

▼ 取り外し手順

1 ヘッドランプ本体を取り外す

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け → 270 ページ）

2 コネクターを取り外したあと、カバーを取り外す

3 クリップを矢印の方向に外す

4 バルブを取り外す

▼ 取り付け手順

1 バルブの突起部をヘッドランプ本体の溝にはめ込む

2 クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定する

3 矢印の方向にカバーを押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクターを取り付ける

4 ヘッドランプ本体を取り付ける

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け → 270 ページ）

車幅灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

▼ 取り外し手順

1 ヘッドランプ本体を取り外す

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け → 270 ページ）

2 ソケットを回して取り外す

3 ソケットからバルブを引き抜く

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯

▼ 取り外し手順

1 ヘッドランプ本体を取り外す

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け → 270 ページ）

2 ソケットを回して取り外す

3 ソケットからバルブを引き抜く

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

⚠ 警告

- 制動灯 / 尾灯が点灯した直後はランプ裏側の放熱フィンは高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあります。

▼ 取り外し手順

1 ネジ（1 本）を取り外す

2 矢印の方向にランプ本体を引いて、クリップからランプ本体を外す

3 交換する電球のソケットを回して取り外す

4 ソケットからバルブを引き抜く

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

ハイマウントストップランプ

▼ 取り外し手順

1 ネジ（2 本）を取り外して、ランプ本体を取り外す

2 ソケットを回して取り外す

3 ソケットからバルブを引き抜く

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

番号灯

▼ 取り外し手順

1 レンズを矢印の方向にスライドさせて取り外す

2 バルブを引き抜く

▼ 取り付け手順

1 バルブを取り付ける

2 レンズの突起部をランプ本体の溝に入れる

3 レンズを矢印の方向に押して取り付け、確実に固定されたことを確認する

ルームランプ（フロント）

▼ 取り外し手順

1 カバーを矢印の方向に引いて取り外す

2 バルブを取り外す

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

ルームランプ（センター）

オプション／グレード別装備

1 ⊖ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外す

2 バルブを取り外す

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

荷室ランプ

オプション／グレード別装備

1 ネジ（2本）を取り外し、レンズを外す

2 カバーを矢印の方向に引いて取り外す

3 バルブを取り外す

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

キーレスエントリー装着車

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

交換方法

⚠ 警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 電池を交換するときは次のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
  - 濡れた手で電池交換をしない
  - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
  - 油やゴミなどの異物を入れない
- 電池交換をする場合は、必ず体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、リモコンが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。

知識

- 電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。
- 電池交換はトヨタ販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はリモコンの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。

▼ 用意するもの

- 「CR1620（3V）」の新しい電池
- 薄刃の⊖ドライバーなど
  （くぼみに入る程度の幅のもの）
  - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

▼ 交換方法

1 メインキーのグリップを外す

● 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

2 モジュール裏側のカバーを外す

3 電池を取り出す

● 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込みます。

4 新しい電池と交換する

● 電池は⊕極を上側にして取り付けます。

5 カバーとモジュール、およびグリップを取り付ける

● カバーを突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。

⚠ 注意

カバーをはめ込むときは

● 確実にはめ込んでください。浮いたりしていると、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

6 スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する

MEMO

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い
冬に向かっての手入れ …… 282
走行前点検と準備 …… 283
積雪、寒冷時の走行 …… 284
走行中の点検と注意 …… 285
走行後の取り扱い …… 286

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かっての手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジンオイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をトヨタ販売店に依頼してください。

ウインドウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパーブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。

寒冷地用ワイパーブレードは、トヨタ販売店で各車指定のブレードをご購入ください。

知識

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりウインドガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

走行前点検と準備

走行前点検の際に次の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

お車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠ 注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドガラスが割れるおそれがあります。
- フロントウインドガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロントウインドガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠ 注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたは冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着してください。

⚠ 警告

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）装着車、4WD 車、VSC & TRC 装着車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

- 後輪駆動車ですので、チェーンは 2WD、4WD ともに必ず後 2 輪に装着します。
- チェーンはタイヤサイズに合った物をご使用ください。
  - トヨタ純正品のチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。

⚠ 注意

- タイヤチェーンはお車のタイヤサイズに合った、トヨタ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤチェーンの取り付けは各タイヤチェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤチェーン装着時は 30km/h 以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- タイヤチェーンを装着するとホイールキャップに傷が付くおそれがあります。ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップを取り外した状態で、タイヤチェーンを装着してください。

VSC & TRC 装着車

- チェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。
  - VSC
  - TRC

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の装着

⚠ 警告

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。

⚠ 警告

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠ 警告

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

応急用スペアタイヤ装着車

タイヤチェーン装着時、後輪がパンクした場合は、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、お車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。

また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠ 警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態でお車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- フロントワイパーアームを起こすときは、必ず運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパーアームから戻してください。
- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがあります。駐車ブレーキをかけずにシフトレバーをオートマチック車は“P”レンジ、マニュアル車は 1 速または“R”（後退）に入れて、輪止め *1 をしてください。

 *1 輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

知識

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを収納してください。
（アンテナ→ 222 ページ）

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

知識

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデーカバーを使用してください。

⚠ 警告

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布で覆ったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

MEMO

いざというときに

工具類
格納場所 …… 290
ジャッキの使いかた …… 292
いざというときの処置
エンジンが
かからないとき …… 296
スタック（立ち往生）
したとき …… 296
故障したとき …… 297
けん引されるとき …… 298
パンクしたとき …… 300
スペアタイヤ …… 301
タイヤの交換 …… 303
バッテリーあがりの処置 … 307
オーバーヒートの処置 …… 310
キーを閉じ込めたとき …… 311
車両を緊急停止するには … 312
事故が起きたとき …… 313

工具類

格納場所

⚠ 警告

- ジャッキ、工具、スペアタイヤは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

スペアタイヤの位置

バックドア下部に収納しています。

工具の位置

ベンチタイプ

リヤシート下部に収納しています。

〈運転席側リヤシート〉

〈助手席側リヤシート〉

分割乗用タイプ

リヤシート下部に収納しています。
サイドカバーを取り外してから、工具またはけん引フックを取り出してください。

▼ サイドカバーの取り外しかた

サイドカバーのツマミ部をつまみながら矢印の方向へ動かします。

〈運転席側リヤシート〉

〈助手席側リヤシート〉

ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- ジャッキアップした車体の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを“P”レンジに、マニュアル車は1速に入れて、輪止めをしてください。お車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 備え付けのジャッキは、タイヤの交換、およびタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車両を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物をお車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。

▼ セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にセットします。

フロント

リヤ

ジャッキのかけかた

▼ 操作手順

1 ジャッキを手で回して、セット位置まで上げる

2 ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車体を持ち上げる

⚠ 警告

- リヤをジャッキアップするときは、次のことをお守りください。ジャッキが外れて車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ジャッキを車軸に対して直角にセットする
  - ジャッキ頭部の中心を車軸の中心に確実に合わせる

ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合

ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置にセットしてください。

⚠ 警告

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車両が損傷したりするおそれがあります。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カットシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カットシステムが作動している可能性があります。燃料カットシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“LOCK”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのトヨタ販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、お車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。お車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

● 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
（けん引されるとき→ 298 ページ）

📖 知識

VSC & TRC 装着車

● TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。
（VSC & TRC OFF スイッチ→ 158 ページ）

パートタイム 4WD 車

● 状況によって、4WD に切り替えると、脱出が容易になる場合があります。
(パートタイム 4WD → 150 ページ)

▼ 脱出手順

1 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをマニュアル車はニュートラル、オートマチック車は“P”レンジに入れ、エンジンを停止する

2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く

3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにする

4 エンジンを始動する

5 シフトレバーをマニュアル車は 1 速、または“R”（後退）、オートマチック車は“D”、または“R”レンジに確実に入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏む

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠ 注意

● お車を押す場合、シフトレバーはニュートラルに入れてください。

● エンジンスイッチを“START”で保持しても、緊急避難時に車を動かすことができません。

📖 知識

● 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブボックスの左下に設置されています。

⚠ 警告

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用しないでください。引火してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- トンネル内では使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

知識

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、トヨタ販売店、または専門業者に依頼し、車両積載車で 4 輪とも持ち上げて運搬してください。別冊の「メンテナンスノート」巻末のトヨタサービス網、JAF ロードサービスを参考にしてください。

⚠ 警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD 車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、お車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、次の注意にしたがってください。

⚠ 警告

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

⚠ 注意

- 次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにトヨタ販売店にご連絡ください。
  - エンジンはかかるがお車が動かない
  - 異常な音がする

▼ けん引を行う前に

⚠ 警告

- けん引される車両は、次の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあり危険です。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ON”にし、シフトレバーはニュートラルにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意

- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、トヨタ販売店にご確認ください。駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- オートマチック車の4WD車の場合、ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

- 前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
- けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。

（格納場所→ 290 ページ）

▼ けん引フックの取り付けかた

1 カバーを外す

- 薄刃の⊖ドライバーなどをカバーの切りかきに差し込みます。
（傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻いてください）

2 けん引フックを差し込み、ホイールナットレンチでしっかりと固定する

⚠ 注意

- フロントサスペンションメンバーにロープを取り付けないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

⚠ 警告

- 高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。
- パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
（タイヤの交換→ 303 ページ）

スペアタイヤ

応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみ使うタイヤです。応急用スペアタイヤは標準タイヤに比べて、空気圧が高く、直径がやや小さくできています。お使いになるときは注意事項をお守りください。

⚠ 警告

- この応急用スペアタイヤはお客様の車専用です。ほかのタイヤやホイールと組み合せたり、ほかの型式、車種の車に使わないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急用スペアタイヤの点検は、最低でも月1回行ってください。
  空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）

⚠ 注意

- 応急用スペアタイヤを装着した場合は80km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 後輪がパンクしたときには、応急用スペアタイヤを後輪に使用しないでください。後輪がパンクしたときには、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に付けて走行してください。
- 同時に２つ以上の応急用スペアタイヤを使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
  雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用スペアタイヤ装着時は車高が低下します。同じ感覚で運転するとぶつけるおそれがあります。

スペアタイヤの取り外しかた／取り付けかた

▼ 取り外しかた

1 バックドアを開けて、ホイールナットレンチでスペアタイヤキャリアの固定ボルトをゆるめる

2 スペアタイヤキャリアを少し持ち上げ、フックから外す

3 スペアタイヤキャリアを下ろし、タイヤを取り外す

▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

- ホイール意匠面を上向きにして、スペアタイヤキャリアのセンター部に引っかけてからフックに掛けてください。
- フックに掛からないときは、スペアタイヤの後端部分を矢印の方向に少し持ち上げた状態で、フックに掛けてください。

⚠ 警告

- スペアタイヤを収納するときは、取り付け状態を十分確認してください。取り付けが不安定な状態になっていると、走行中の脱落により思わぬ事故の原因になります。

知識

- パンクしたタイヤをスペアタイヤキャリアに取り付けるときは、ホイール表面（意匠面）を上向きに取り付けてください。
- パンクしたタイヤをスペアタイヤキャリアに取り付けるとき、空気が十分残っていると、取り付けできない場合があります。そのときは空気を完全に抜いてから取り付けてください。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車体の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず思わぬ事故につながるおそれがあり大変危険です。

- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車両の安定性が損なわれたり、制動距離が長くなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ABS が正常に作動しないことがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。

⚠ 注意

- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- お車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人はお車から降り、重い荷物はお車から降ろしてください。

交換の手順

1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフトレバーをマニュアル車は 1 速、“P”レンジの位置にする

2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め *1 を置く

知識

- 輪止めが無い場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出す

（格納場所→ 290 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 292 ページ）
（スペアタイヤ→ 301 ページ）

4 フルホイールキャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたホイールナットレンチを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフルホイールキャップを外す

⚠ 警告

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ホイールナットレンチは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイールキャップが割れるおそれがあります。

5 ジャッキが外れた場合の危険防止のため、スペアタイヤを交換するタイヤの近くの車体の下に置く

 *1 輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

▼ タイヤの取り外し

1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる

2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる

（ジャッキの使いかた→ 292 ページ）

3 ホイールナット（4 つ）を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る

⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

2 タイヤを取り付ける

3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締めする

- ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回します。

⚠ 警告

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、図の番号順に2、3度しっかり締め付ける
  - 締付力（レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
  - 締付トルク：103N•m {1,050kgf•cm}

⚠ 注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

- しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をトヨタ販売店で受けてください。

▼ 標準タイヤに戻すとき

タイヤ交換の手順と同じです。

⚠ 注意

- タイヤの空気圧を確認してください。
（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）

フルホイールキャップ装着車

フルホイールキャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフルホイールキャップ裏側のマークを合わせ、フルホイールキャップの外周部を押して取り付けます。

バッテリーあがりの処置

次のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスに引火、爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。

⚠ 警告

- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWERLEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、⊕端子をボデー金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。

▼ 処置の手順

1 バッテリーの⊕端子のカバーを外す

2 赤ブースターケーブルを次の順に接続する

❶バッテリーあがり車の⊕端子

❷救援車の⊕端子

3 黒のブースターケーブルを次の順に接続する

❸救援車の⊖端子

❹未塗装の金属部

（図に示すような固定された部分）

ターボ車以外

ターボ車

4 救援車（電源側の車）のエンジンを始動し、エンジン回転を少し高めにして、約 5 分間バッテリーあがり車のバッテリーを充電する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてからバッテリーあがり車のエンジンを始動する

6 バッテリーあがり車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● 次のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

● バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

● バッテリーを交換するときは、このお車専用の eco IDLE 専用バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。

● バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。
（eco IDLE 専用バッテリー→ 211 ページ）

知識

● バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。

オーバーヒートの処置

次の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- エンジンルームまたはボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

お車を安全な場所に止め、次の処置をしてください。

⚠ 警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 処置の手順

1 エンジンルームまたはボンネットから蒸気が出ているとき

- エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでエンジンルームまたはボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しエンジンルームまたはボンネットを開け、風通しを良くします。

2 エンジンルームまたはボンネットから蒸気が出ていないとき

- エンジンをかけたままエンジンルームまたはボンネットを開け、風通しを良くします。

3 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジンルームおよびボンネットをチェックする

- 次のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてトヨタ販売店にご連絡ください。
  - 冷却ファンが回転していないとき
  - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
  - ラジエーターリザーバータンクの水がないとき
  - ファンベルトが切れているとき

4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める

5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する

6 冷却水が不足しているときは、補給する

- 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

● 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

知識

オーバーヒートを防ぐために

● 日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンスノート」参照）

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAF などを呼んでください。

別冊の「メンテナンスノート」巻末の JAF ロードサービスのご案内を参照してください。

キーをなくした場合

保管していたキーナンバープレートを最寄りのトヨタ販売店にお持ちください。

知識

● キーの閉じ込みで困らないために次の習慣を心がけてください。
  - 日頃からキーを使ってロックしてください。
  - バッグなどにスペアキーを入れておいてください。

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

緊急停止方法

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

⚠ 警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをニュートラルに入れる

シフトレバーがニュートラルに入った場合

3 減速後、お車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

シフトレバーがニュートラルに入らない場合

4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

5 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する

6 お車を安全な道路脇に停める

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに次の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1 ただちにお車を止めます。お車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。

2 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。

3 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。

4 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。

5 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

サービスデータ

サービスデータ

項目			サービスデータ	
点火プラグ	メーカー		NGK	デンソー
	プラグ型式	ターボ車以外	ILKR6F11 (イリジウムプラグ)	SXU20HPR11 (イリジウムプラグ)
		ターボ車	ILKR7D8 (イリジウムプラグ)	SXU22HPR8 (イリジウムプラグ)
ファンベルト	たわみ量(㎜) 押力98N{10kgf}時		7.8〜9.7(点検時) 点検位置➡	
アイドリング回転数(rpm)			800	
ブレーキペダル	遊び(㎜)		0.5〜2	
	床板とのすき間(㎜) (踏力294N{30kgf}時)		77以上	
クラッチペダル	遊び(㎜)		15〜25	
	床板とのすき間(㎜) (切れ残りしろ*)	ターボ車以外	28以上	
		ターボ車	25以上	
駐車ブレーキ	引きしろ (操作力196N{20kgf}時)		6〜10ノッチ	
バッテリー			M-42	
フューエルタンク	容量(ℓ)(無鉛ガソリン使用)		40	
ウォッシャータンク	容量(ℓ)		2.0	

＊クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

項目				サービスデータ
エンジンオイル	使用オイルと交換時期	ターボ車以外		トヨタ純正モーターオイル SAE5W-30*1 (API分類SN/RC、ILSAC規格GF-5) 6か月ごとまたは、 10,000㎞ごと(5,000㎞ごと*2) のどちらか早い方
		ターボ車		トヨタ純正モーターオイル SAE5W-30*1 (API分類SN/RC、ILSAC規格GF-5) 6か月ごとまたは、 5,000㎞ごと(2,500㎞ごと*2) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時		約3.2
		オイルとオイルフィルター(オイルクリーナー)交換時		約3.4
オイルフィルター(オイルクリーナー)	交換時期			10,000㎞ごと(5,000㎞ごと*2)
トランスミッションオイル	交換時期			100,000㎞ごと
	使用オイル	M/T車		トヨタ純正MGギヤオイルスペシャルⅡ SAE75W-90(API分類GL-3)
		A/T車		アミックスオートフルードD-Ⅲ
	交換量(ℓ)	M/T車	2WD	約1.1
			4WD	約1.95(トランスファ含む)
		A/T車	2WD	約1.2(ドレーン)、約4.1(全容量)
			4WD	約1.0(ドレーン)、約3.9(全容量)

＊1　省燃費性に優れるオイルです。

＊2　シビアコンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

項目				サービスデータ
トランスファオイル	交換時期			100,000㎞ごと
	使用オイル			トヨタ純正MGギヤオイルスペシャルⅡ SAE75W-90(API分類GL-3)
	交換量(ℓ)	M/T車		約1.95(トランスミッション含む)
		A/T車		約1.6
デファレンシャルオイル	交換時期			30,000㎞ごと または2年ごと
	使用オイル			トヨタ純正ハイポイドギヤオイルSX SAE85W-90(API分類GL-5)
	交換量(ℓ)	フロント		約0.5
		リヤ		約1.1
ブレーキオイル	交換時期			2年ごと
	使用オイル			トヨタ純正ブレーキフルード2500H-A
エアクリーナーエレメント	交換時期			40,000㎞ごと(20,000㎞ごと*)
冷却水(除くリザーバータンク)	交換時期			2年ごと
	使用液			トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
	規定濃度(%)			30(寒冷地50)
	全容量(ℓ)	ターボ車以外	M/T車	5.5(リヤヒーター付き車は5.9)
			A/T車	5.6(リヤヒーター付き車は6.0)
		ターボ車	M/T車	5.6(リヤヒーター付き車は6.0)
			A/T車	5.7(リヤヒーター付き車は6.1)

＊　シビアコンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧（空車時：kPa{kgf/㎠}）		タイヤの溝の深さ（㎜）	タイヤローテーション時期
	前輪	後輪		
145/80R12 80/78N LT	280{2.8}	350{3.5}	1.6以上	5,000㎞ごと
T125/90 D12（応急用タイヤ）	420{4.2}			ー

知識

- 標準装着タイヤ、装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボデー側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

MEMO

さくいん

ア

アイドリング回転数 …… 316
アイドリングストップ時間 …… 116
アイドリングストップシステム …… 200
アイドリングストップ積算時間 …… 117
アウター（ドア）ミラー …… 94
アクセサリーソケット …… 232
アシストグリップ …… 235
アンチロックブレーキシステム（ABS） …… 152
アンテナ …… 222

イ

イージースタートサポート …… 135
EPS（電動パワーステアリング）警告灯 …… 105
EBD …… 152
イグニッション（エンジン）スイッチ …… 142
イグニッションキー …… 62
インジケーターランプ（表示灯） … 107
インターロック …… 143
インナー（ルーム）ミラー …… 94
インパネセンターポケット …… 237

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ … 129
ウインカー（方向指示）表示灯 …… 107
ウインドウォッシャー液の補給 …… 254
ウインドガラス
・手動式ウインド …… 78
・パワーウインド …… 76
ウインドデフォッガースイッチ …… 220
上向き表示灯 …… 107
ウォーニングランプ …… 99
ウォッシャースイッチ …… 127
ウォッシャータンクの容量 …… 316
運転席 SRS エアバッグ …… 53
運転席シートベルト締め忘れ警告灯 …… 102
運転席ロアポケット …… 237

エ

エアクリーナーエレメントの
データ …… 318
エアコン
・マニュアル …… 214
・リヤヒーター …… 221
エアコンガス …… 262
エアバッグ …… 53
エアフィルター …… 262
AM/FM ラジオ …… 224
AM ラジオ …… 227
A/C（エアコン）
・マニュアルエアコン …… 214
・リヤヒーター …… 221
A/T（オートマチック）車 …… 132
ABS …… 152
ABS 警告灯 …… 104
eco IDLE
（エコアイドル）…… 200
eco IDLE OFF スイッチ …… 208
eco IDLE OFF 表示灯 …… 207
eco IDLE 専用バッテリー …… 211
eco IDLE 表示灯 …… 207
エコインジケーター …… 112
エコインジケーターの表示設定 …… 117
エコ発電制御 …… 212
SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ警告灯 …… 104
SRS エアバッグ
コンピューター …… 59
FM ラジオ …… 227
エマージェンシー
ストップシグナル …… 199
M/T（マニュアル）車 …… 149
LLC（冷却水）のデータ …… 318
エンジンオイルのデータ …… 317
エンジンオイルレベルゲージ …… 253
エンジンがかからないとき …… 296
エンジンキー …… 62
エンジン警告灯 …… 99
エンジンスイッチ …… 142
エンジンフード（ボンネット） …… 247
エンジンルーム …… 246
エンジンルームの開閉 …… 248

オ

オイルの交換量 …… 317
オイルフィルターのデータ …… 317
オイルプレッシャー（油圧）警告灯 … 99
応急用スペアタイヤ …… 301
オーディオ …… 222
オートハイビーム …… 121
オートハイビーム警告灯 …… 124
オートハイビーム作動灯 …… 124
オート（パワー）ウインド …… 76
オートマチック車 …… 132
オートマチックトランスミッション
警告灯 …… 102
ランプスイッチ …… 119
オーバードライブ（O/D）OFF
表示灯 …… 108
O/D OFF 表示灯 …… 108
オーバードライブスイッチ …… 147
オーバーヒートの処置 …… 310
オーバーヘッドシェルフ …… 237
オープナー
・ボンネット …… 251
・フューエルリッド …… 81
オープントレイ …… 237
お子さま専用シート …… 44
オドメーター（積算距離計） …… 114
オルタネーター（ファン）ベルトの
点検基準値 …… 316

カ

カードホルダー
・運転席ドア …… 238
・サンバイザー …… 234
外気温 …… 115
鍵（キー） …… 62
カップホルダー …… 239
間欠ワイパー（ワイパー・
ウォッシャースイッチ） …… 127

キ

キー …… 62
キーインターロック …… 143
キー（エンジン）スイッチ …… 142
キー閉じ込み防止機能 …… 68
キー抜き忘れ警告ブザー …… 143
キーの電池交換 …… 278
キーレスエントリー …… 64
キーを閉じ込めたとき …… 311
機能停止コード
（スマートアシストⅢ） …… 191
給油口（フューエルリッド） …… 81
緊急停止するには …… 312

ク

空気圧のデータ …… 319
空調 …… 214
クーラー（エアコン）
・マニュアルエアコン …… 214
クーラント（冷却水）のデータ …… 318
区間距離計（トリップメーター） … 114
曇り取り
・フロント …… 216
・リヤ …… 220
クラクション（ホーン）スイッチ … 129
クラッチスタートシステム …… 132
クラッチペダルの点検基準値 …… 316
クリーナー（オイルフィルター）のデータ …… 317
クリーンエアフィルター …… 262
グローブボックス …… 238

ケ

警音器（ホーン）スイッチ …… 129
計器（メーター） …… 111
警告灯 …… 99
警告ブザー
・アイドリングストップシステム警告ブザー …… 206
・エンジン冷却水温ブザー …… 102
・キー抜き忘れ警告ブザー …… 143
・シートベルト締め忘れ警告ブザー（運転席） …… 102
・スマートアシストⅢのブザー … 192
・駐車ブレーキ警告ブザー …… 100
・電動パワーステアリング警告灯 …… 106
・燃料残量警告ブザー …… 103
・ランプ消し忘れ警告ブザー …… 125
けん引されるとき …… 298

コ

工具 …… 290
高水温警告灯 …… 101
後席（リヤシート） …… 85
航続可能距離 …… 114
コーナーセンサー（リヤ） …… 195
故障したとき …… 297
誤発進抑制制御機能（前方・後方）…… 176
小物入れ
・グローブボックス …… 238
コンソールトレイ …… 237
コンビネーションメーター …… 111

サ

サービスデータ …… 316
サイド（駐車）ブレーキ …… 144
サイド（ドア）ミラー …… 94
3 点式 ELR シートベルト …… 39
サンバイザー …… 234

シ

シート
・フロント …… 82
・リヤ …… 85
シートアレンジ …… 93
シートベルト …… 39
シートベルト締め忘れ警告灯
（運転席）…… 102
シートベルトの使いかた …… 40
事故が起きたとき …… 313
室内照明 …… 230
シフトインジケーター …… 112
シフトレバー
・オートマチック車 …… 145
・マニュアル車 …… 149
シフトロック解除ボタン …… 148
シフトロック機構 …… 148
車載工具 …… 290
車線逸脱警報 OFF 表示灯 …… 189
車線逸脱警報機能 …… 183
車線逸脱警報作動灯 …… 188
ジャッキの使いかた …… 292
車両を緊急停止するには …… 312
集中（パワー）ドアロック …… 68
充電警告灯 …… 100
手動式ウインド …… 78
使用オイル …… 317
乗降グリップ …… 235
照度調整 …… 117
衝突回避支援ブレーキ機能
（対車両・対歩行者）…… 167
衝突警報機能
（対車両・対歩行者）…… 167
照明 …… 230
助手席 SRS エアバッグ …… 53
助手席シートバックポケット …… 238
助手席トレイ …… 237
助手席前倒し機構 …… 84

ス

水温警告灯 …… 101
水温表示灯 …… 108
スタック（立ち往生）したとき …… 296
ステレオカメラ …… 164
スノー（タイヤ）チェーン …… 284
スパーク（点火）プラグの型式 …… 316
スピードメーター …… 112
スペアタイヤ …… 301
スマートアシスト OFF スイッチ … 193
スマートアシスト OFF 表示灯 …… 189
スマートアシスト機能停止コード … 191
スマートアシスト故障警告灯 …… 190
スマートアシスト作動灯 …… 188
スマートアシストⅢ …… 161
スマートアシスト停止警告灯 …… 190
スライド調整 …… 82
スライドドア …… 69
スリップインジケーター …… 157

セ

積算距離計（オドメーター） …… 114
セレクト（シフト）レバー
・オートマチック車 …… 145
・マニュアル車 …… 149
先行車発進お知らせ機能 …… 186
洗車 …… 242
前照灯（ヘッドランプ）の
切り替え …… 120
前席（フロントシート） …… 82
センタートレイ …… 237

ソ

速度計（スピードメーター） …… 112
ソナー …… 166

タ

ターボ車 …… 132
ターンシグナルインジケーター
（方向指示表示灯） …… 107
ターンシグナル（方向指示）
スイッチ …… 129
タイヤチェーン …… 284
タイヤの交換 …… 303
タイヤのデータ …… 319
タイヤの点検 …… 256
タイヤのローテーション …… 257
正しい運転姿勢 …… 38
正しいシートベルトの着用 …… 39
暖房（エアコン）
・マニュアルエアコン …… 214
・リヤヒーター …… 221

チ

チェーン …… 284
チェックエンジン警告灯 …… 99
チェンジ（シフト）レバー
・オートマチック車 …… 145
・マニュアル車 …… 149
チケットホルダー …… 234
チャージ（充電）警告灯 …… 100
チャイルドシート …… 44
チャイルドシートの選びかた …… 46
チャイルドシートの固定のしかた …… 49
チャイルドシートの種類 …… 45
駐車ブレーキ …… 144
駐車ブレーキの点検基準値 …… 316
駐車ブレーキ未解除警告灯 …… 100

ツ

ツール（工具） …… 290

テ

TRC …… 155
TRC OFF 表示灯 …… 158
低水温表示灯 …… 108
ディスクホイール（タイヤ）の交換 …… 303
ディスクホイール（タイヤ）のデータ …… 319
テールインジケーター …… 108
デッキサイドポケット …… 238
デファレンシャルオイルのデータ … 318
デフォッガースイッチ …… 220
デフロスター（曇り取り）
・フロント …… 216
・リヤ …… 220
デュアル SRS エアバッグ …… 53
点火プラグの型式 …… 316
電球の交換 …… 266
点検整備項目（サービスデータ） … 316
電池の交換 …… 278
電動格納式（ドア）ミラー …… 95
電動パワーステアリング警告灯 …… 105
電力回生制御 …… 212

ト

ドア …… 65
ドアウインド
・手動式ウインド …… 78
・パワーウインド …… 76
ドアポケット …… 238
ドアミラー …… 94
ドア連動機能 …… 231
ドアロック …… 68
時計
・AM/FM ラジオ …… 225
・マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 118
時計の調整
・AM/FM ラジオ …… 225
・マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 118
トランスファオイルのデータ …… 318
トランスミッションオイルの
データ …… 317
トリップメーター（区間距離計） … 114
ドリンクホルダー …… 239

ニ

荷室 LED ランプ …… 230
荷室ランプ …… 230

ネ

燃費（平均燃費） …… 114
燃料カットシステム …… 296
燃料給油口（フューエルリッド） …… 81
燃料計 …… 112
燃料残量警告灯 …… 103
燃料（フューエル）タンクの容量 … 316

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ …… 144
パーキング（駐車）ブレーキの点検基準値 …… 316
パーキング（駐車）ブレーキ未解除警告灯 …… 100
パートタイム 4WD 車 …… 150
ハイビーム（ヘッドランプ上向き）表示灯 …… 107
ハザードインジケーター（非常点滅表示灯）…… 107
ハザード（非常点滅灯）スイッチ … 130
発炎筒 …… 297
バックドア …… 72
バックミラー …… 94
パッシング（ヘッドランプの切り替え）…… 120
バッテリー …… 211
バッテリーあがりの処置 …… 307
バッテリーあがり防止機能 …… 231
バッテリーの型式 …… 316
発電制御 …… 212
バニティーミラー …… 235
バルブ（電球）の交換 …… 266
パワーウインド …… 76
パワーステアリング警告灯 …… 105
パワードアロック …… 68
パンクしたとき …… 300
半ドア警告灯 …… 103
ハンド（レバー式駐車）ブレーキ … 144

ヒ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） …… 154
ヒーター（エアコン）
・マニュアルエアコン …… 214
・リヤヒーター …… 221
被害軽減ブレーキアシスト …… 167
非常点滅灯スイッチ …… 130
非常点滅表示灯 …… 107
100V 電源 …… 233
ヒューズボックス …… 263
表示灯 …… 107
ピラーアンテナ …… 222
ヒルスタートシステム …… 209
ヒルホールドシステム …… 160

フ

ファンベルトの点検基準値 …… 316
VSC …… 154
VSC OFF 表示灯 …… 158
VSC & TRC OFF
スイッチ …… 158
VSC & TRC 警告灯 …… 157
フィルターのデータ
・オイルフィルター …… 317
・クリーンエアフィルター …… 262
フォースリミッター機構付
シートベルト …… 41
フォグランプスイッチ …… 126
フォグランプ表示灯 …… 108
不凍液（冷却水）のデータ …… 318
フューエルウォーニング
（燃料残量警告灯）…… 103
フューエルタンクの容量 …… 316
フューエル（燃料）
カットシステム …… 296
フューエルメーター（燃料計）…… 112
フューエルリッド …… 81
プラグの型式 …… 316
プリテンショナー & フォース
リミッター機構付シートベルト …… 41
フルフラットシート …… 93
ブレーキ（ABS）…… 152
ブレーキオイルのデータ …… 318
ブレーキオーバーライドシステム … 133
ブレーキオーバーライドシステム
表示灯 …… 109
ブレーキ警告灯 …… 100
ブレーキペダルの点検基準値 …… 316
ブレード（ワイパー）の交換 …… 258
フロントシート …… 82
フロントシートベルト …… 39
フロントドア …… 65
フロントフォグランプスイッチ …… 126
フロントワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 127

へ

平均燃費 …… 114
ヘッドランプ上向き表示灯 …… 107
ヘッドランプの切り替え …… 120
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 125
ヘッドレスト …… 91
ベルトの点検基準値 …… 316
ペンホルダー …… 238

ホ

ホイール（タイヤ）の交換 …… 303
ホイール（タイヤ）のデータ …… 319
方向指示スイッチ …… 129
方向指示表示灯 …… 107
ホーンスイッチ …… 129
補給口（フューエルリッド） …… 81
ポジション表示
（シフトインジケーター）…… 112
ボンネット …… 247
ボンネットの開閉 …… 250

マ

前倒し …… 84
マスターウォーニング …… 106
窓ガラス
・手動式ウインド …… 78
・パワーウインド …… 76
マニュアルエアコン …… 214
マニュアルシフトレバー …… 149
マニュアル車 …… 149
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 113
マルチユーティリティフック …… 239

ミ

ミラー
・ドアミラー …… 94
・ルームミラー …… 94

メ

メインキー …… 62
メーター …… 111
メンテナンスデータ
（サービスデータ）…… 316

ユ

油圧警告灯 …… 99

ヨ

４速オートマチックトランス
ミッション …… 132
４WD 切り替えスイッチ …… 150
4WD 車 …… 133
４WD 表示灯 …… 109

ラ

ライトスイッチ …… 119
ラジエーター液（冷却水）の
データ …… 318
ラジオ …… 224
ラバー（ワイパー）の交換 …… 258
ランプ消し忘れ警告ブザー …… 125
ランプ自動消灯機能 …… 124

リ

リクライニング調整 …… 82
リバース連動リヤワイパー …… 129
リモコンスイッチ …… 66
リヤウインドデフォッガー
スイッチ …… 220
リヤシート …… 85
リヤシートの格納 …… 86
リヤシートベルト …… 39
リヤデファレンシャルオイルの
データ …… 318
リヤドア …… 69
リヤヒーター …… 221
リヤワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 128

ル

ルームミラー …… 94
ルームランプ
・センター …… 230
・荷室 …… 230
・フロント …… 230

レ

冷却水のデータ …… 318
冷房（エアコン）
・マニュアルエアコン …… 214
レバー式駐車ブレーキ …… 144
レベリングスイッチ …… 125

ロ

ローテーション …… 257

ワ

ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 127
ワイパーの交換 …… 258
ワイヤレスドアロック
（キーレスエントリー） …… 64
W 数（電球） …… 267

1

100V 電源 …… 233

3

3 点式 ELR シートベルト …… 39

4

4 速オートマチックトランス
ミッション …… 132
4WD 切り替えスイッチ …… 150
4WD 車 …… 133
4WD 表示灯 …… 109

A

ABS …… 152
ABS 警告灯 …… 104
A/C（エアコン）
・マニュアルエアコン …… 214
・リヤヒーター …… 221
AM/FM ラジオ …… 224
AM ラジオ …… 227
A/T（オートマチック）車 …… 132

E

EBD …… 152
eco IDLE
（エコアイドル）…… 200
eco IDLE OFF スイッチ …… 208
eco IDLE OFF 表示灯 …… 207
eco IDLE 専用バッテリー …… 211
eco IDLE 表示灯 …… 207
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 …… 105

F

FM ラジオ …… 227

L

LLC（冷却水）のデータ …… 318

M

M/T（マニュアル）車 …… 149

O

O/D OFF 表示灯 …… 108
O/D（オーバードライブ）
スイッチ …… 147

S

SRS エアバッグ …… 53
SRS エアバッグ警告灯 …… 104
SRS エアバッグ
コンピューター …… 59

T

TRC …… 155
TRC OFF 表示灯 …… 158

V

VSC …… 154
VSC OFF 表示灯 …… 158
VSC & TRC OFF
スイッチ …… 158
VSC & TRC 警告灯…… 157
V（ファン）ベルトの点検基準値 … 316

W

W 数（電球）…… 267

● “スマートアシスト”“スマアシ”“eco IDLE”“アミックス”はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

M B5219
01999ーB5219
KB-2020年12月21日
2020年 9 月 1 日 初版
2020年12月28日 2 版
ピクシス バン